

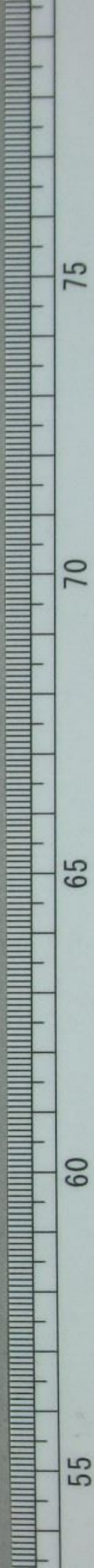
泰西史鑑

上編

一

泰西史鑑

リ 9  
1445  
2 止



門 579  
號 1445  
卷 2

泰西史鑑上編卷之二

上古ノ史ニ  
第三世期  
亞伯拉罕

耶穌生前二千年

○挪亞ノ子孫ハ前時ノ大洪水ニ懲リ心ヲ改メテ正道ニ歸スヘキニ却テ然ルヲ能ハズ深ク異教ニ迷溺シ宇宙間ニ皇天上帝アルヲ知ラズ惟上帝ノ造為スル物アルヲ知ル或ハ日月星ヲ尊崇シ或ハ貓兎鰐魚及ビ其他ノ鳥獸ヲ信奉シ或ハ土木ヲ以テ作り

世七  
二  
月  
丁  
巳  
四  
銀  
藏  
氏  
寄  
贈

四  
銀  
藏  
氏  
寄  
贈

上帝何故ニカ、  
 惡民ヲ造リシ  
 且其其靈魂  
 授ルニ何故ニ  
 善良ナル靈魂  
 授ケザルヤ

レニ偶像ヲ崇拜シ。是ニ依リテ又罪業ヲ増ス。テ免カ  
 レス。

○此ノ如ク異端ノ教盛ニ行ハル、ヨリシテ終ニ  
 天下ニ上帝アルコトヲ知ル者ナキニ至ル。上帝深ク下  
 民ノ愚蒙ヲ憫レシ。衆人ノ内ニ於テ善徳アル賢者亞  
 伯拉罕ヲ撰ヒ、以テ大族ノ民ノ主父ト爲シ、其族ノ民  
 フシテ盡ク真ニ皇天上帝アルコトヲ知ラシム。夫ヨリ  
 推シテ天下ノ民ヲシテ盡ク上帝ノ現存スルコトヲ知  
 ラシム。此民族ハ雅各ノ晩年ノ名ニ從テ之ヲ以色列  
 人トイフ。雅各晩年ニ至ル。上帝ト角カスルノ義ナリ。

又雅各ノ子猶太ノ名ニ從テ或ハ之ヲ猶大人ト云ス。  
 此民又迦南ニ住ムヲ以テ或ハ之ヲ希伯來人ト云ス。  
 異國人ノ義ナリ。是ハ幼發拉的河ノ對岸ノ地ヨリ來  
 ルヲ以テ此名ヲ得タリ。

○此民族ノ主父ナル亞伯拉罕ハ、パトリアルク又カ  
 ールストハ、テルノ稱号ヲ得タリ。純善ニシテ些少  
 ノ惡ナキ人ナリ。亞伯拉罕、牧畜ヲ以テ業ト爲シ、幼發  
 拉的河ト、低格里河トノ間ニ在ル美索不達米トイハ  
 ル肥沃ナル地ニ於テ、其獸畜ヲ牧飼シ、常ニ諸牧人ノ  
 長ト爲ル。亞伯拉罕、弱齡ノ時ヨリ、既ニ上帝アルコトヲ

知リ深ク之ヲ信奉ス故ヲ以テ上帝ノ亞伯拉罕ヲ眷顧スルヲ獨リ深シ亞伯拉罕美索不達米ノ民ノ異端ニ惑フヲ惡シ去リテ巴勒斯的納ニ赴ク巴勒斯的納ハ世界ノ善土ノ一ナリ亞伯拉罕其地ヲ愛シ名ケテ蜂蜜乳汁ノ富饒ナル地ト稱セリ則チ此地ニ於テ獸畜ヲ牧飼シ遠ク示劍ノ地ニ至レリ此地ハ上帝亞伯拉罕及ヒ其子孫ニ與ヘンヲ約セシ所ナリ亞伯拉罕深ク上帝ノ意ヲ感シ祭壇ヲ築ツキ以テ其恩ヲ謝ス

○其後ニ至リ亞伯拉罕ノ牧人ト羅得ノ牧人ト互ニ

牧地ヲ争ス亞伯拉罕深ク之ヲ憂ヒ羅得ニ謂テ曰ク願クハ吾ト汝ト及ビ我牧人ト汝カ牧人ト争証スルヲヲ息メヨ我ト汝ト固ヨリ兄弟ナリ今目前ニ廣大ノ土地アリ爾左方ノ地ヲ欲セバ我ハ其右方ノ地ヲ取ラニ爾右方ノ地ヲ欲セバ我ハ左方ノ地ヲ取ラニ唯爾ガ撰フ処ノマナリ羅得是ニ於テ約但河傍ノ地潤澤多クシテ且ツ所多馬蛾摩拉等ノ都邑アルヲ以テ自ラ之ヲ撰ミ取ル亞伯拉罕ハ迦南ノ地ニ留マリテ復タ其利ヲ争ハス

○羅得此肥饒ナル土地ヲ得シカドモ却テ甚シキ不

古人曰ク教ヘス  
テ之ヲ罪スル是  
虐ナリト上帝  
始ニ其魂ヲ殺  
ケシ時善良ナ  
ルヲ殺ケテ後  
其妻業アルヲ  
怒リテ善ヲ為  
悉ク之ヲ罰スル  
カクノ如ク其  
ナリト云フ是  
ナリト云フ是

幸ヲ得タリ、所多馬ノ民及ヒ其傍近ノ諸邑ノ民、皆驕奢淫佚ニ流レ、禮義ニ止マレ、ヲ知ラズ、是ニ於テ上帝譴罰ヲ降シ、善徳アル羅得ノ外ハ其民、其都邑ト共ニ火雨ノ中ニ沈没シ、美麗ナリシ國土、變ジテ硫黄ト塩トノ海ト為ル、此迹今日ニ至ルマデ猶存在シ、後人之ヲ名ケテ鹹海トイフ、歐羅巴人ハ、通常之ヲ死海ト名ク、此ノ如ク明カニ天譴ヲ被リシ地ナルヲ以テ、人獸共ニ畏レ避テ、其傍ニ近ク者ナシ、此死海ノ濱、浩渺寂寥トシテ、絶テ村落家屋ヲ見ズ、唯稀レニ旅人ノ新奇ヲ好ム者、異聞ヲ探ラシガ為メ、此所来リ、且畏レ且

帝ノ慈ト称スル  
コトニシヤ

上帝ヲ奉崇セ  
サレシ之ヲ愛セ  
ズ

歩シテ、此海濱ニ近ク者アリ、其水、塩氣甚ク強ク、其水蒸氣一タロ旅人ノ衣ニ著ク、凡ハ塩氣凝固シテ、痂皮ノ如シ、聖經ニ據ルニ、亞伯拉罕、生民ノ為メ、深ク此不幸ヲ嗟キ、懇祈シテ、此難ヲ救ハントセシメ、アリ、○亞伯拉罕ノ上帝ヲ度奉スル、愈深ク、上帝ノ亞伯拉罕ヲ眷佑スル、愈厚シ、亞伯拉罕年既ニ一百歳ニ至リ、上帝、其妻撒拉ノ腹ニ一子ヲ授ケ、是ヲ以テ撒ラ名久、以テ撒生長スルニ及ビ、上帝、亞伯拉罕ノ信隨ノ心ヲ探ラシガ為メ、其最モ難キ處ノ事ヲ以テ、之ヲ試シ、トシ、則チ亞伯拉罕ニ告テ曰ク、爾、爾ノ子ヲ摩哩山

ノ上ニ携ヘ、殺シテ以テ余ヲ祭レト。亜伯拉罕、少シモ  
顧慮セズ、直チニ起テ薪ヲ驢背ニ束テ以テ燔祭ノ用  
ニ供シ、二僕ト以撒トヲ携ヘ、家ヲ出テ三日ニシテ摩  
哩山ニ至リ、其僕ニ謂テ曰ク、汝等ハ山下ニ在リテ待  
ツベシ、予ハ予ガ子ト共ニ山ニ登リテ崇拜ヲ行ハシ  
トスト、是ニ於テ亜伯拉罕、其薪ヲ以テ其子ニ負ハシ  
メ、自ラ火ト刀トヲ取リ以テ山ニ上ル。途ニシテ以撒  
其父ニ問テ曰ク、親父、今爰ニ火ト薪トアリ、燔祭ニ供  
スル子羊ハ何クニ在ル。亜伯拉罕哀痛ヲ忍ニテ答テ  
曰ク、愛子、子羊ハ上帝必ス自ラ是ヲ備フナルベシト

子ヲ殺シテ上帝  
ヲ敬フ不情ニ甚シ  
キ者也、或ルニ  
テキキ者ナルニ  
テ知ヤ

是ヨリ二人益登リ己ニ巔ニ達セシカバ、亜伯拉罕、其  
所ニ祭壇ヲ築キ、薪材ヲ其上ニ積ミ、以撒ヲ縛シテ薪  
上ニ置キ、直チニ刀ヲ拔テ之ヲ斬ラントス、忽チ天上  
ニ聲アリテ曰ク、止メヨ、止メヨ、爾ガ兒ヲ害スルト勿  
レ、予汝ノ深ク上帝ヲ畏敬スルヲ知ル、汝上帝ノ為  
メニ、其一子ヲ愛惜セザルノ誠心ヲ嘉ニス、上帝、汝ノ  
子孫ヲシテ益昌盛セシムルヲ天上ノ星ノ如クナラ  
シム、其子孫ノ一人ニ命ジテ天下ノ生民ニ福祉ヲ授  
クルヲ掌ラシメシ

○亜伯拉罕父子ノ歡ビ甚シトイヘ、凡、未ダ何ヲ以テ

子ニ代ルヲナシテ以テ  
ノミテ其子ヲ殺スル  
ルヤナレド也

以撒ニ代ヘテ祭ルベキ者アルヲ見ズ、忽チ其後ヲ顧  
レバ、一ノ牡羊アリ、角ヲ林叢ニ繫テ立テリ、亞伯拉罕  
是ヲ取リ、其子ニ代ヘテ殺シテ以テ上帝ヲ祭ル、亞伯拉  
罕此ノ如ク天ノ眷佑ヲ得、年ヲ享ル、猶數十年ニ及  
ブ、亞伯拉罕又其生前ニ於テ其子ノ為メニ、善良ニシ  
テ、能ク上帝ヲ畏敬スル婦ヲ娶ラシメテ望ム、  
○以撒及ヒ其子雅各、又亞伯拉罕ノ迹ヲ續ギ、牧畜周  
遊ヲ以テ業ト為シ、唯一上帝ヲ尊崇スル、亞伯拉罕  
ニ異ナラズ、故ニ上帝、亞伯拉罕ニ約スルガ如ク、又此  
二人ニ約シ、且ツ其約ヲ申明鞏固ス、

第十三

約瑟

耶穌生前一千八百年

○上帝ノ亞伯拉罕ノ子孫ニ約セシメ、其孫雅各ノ  
時ニ至リ、其一半ヲ充ス、得タリ、雅各十二人ノ子  
アリ、此十二人、盡ク十二族ノ長ト為ル、雅各十二子ノ  
内ニ於テ、殊ニ約瑟ヲ鍾愛シ、為メニ彩衣ヲ製シテ之  
ヲ衣セシム、諸兄之ヲ妬忌シ、好意ヲ以テ約瑟ニ遇セ  
ズ、約瑟嘗テ奇夢アリ、自ラ其夢ヲ説クニ及ビ、諸兄ノ  
約瑟ヲ嫉ム、益々甚シ、  
○約瑟ノ諸兄、皆牧地ニ往テ群畜ヲ牧ス、一日其父、約

瑟ヲシテ、往テ諸兄ヲ觀セシム。諸兄遙カニ約瑟ノ来  
 ルヲ見テ、相謂テ曰ク、咄、夢ヲ作ス者来レリ。空ク之ヲ  
 縊殺シ、其屍ヲ穴中ニ投ジ、歸リテ野獸ノ為メニ嚙裂  
 セラルト云フベシ。然ル後、彼ガ夢兆、果シテ驗アルカ  
 否ヲ知ラント、約瑟ノ来ルニ及ビ、諸兄直チニ之ヲ捕  
 ヲ、其彩衣ヲ奪ヒ、之ヲ雨水孔ニ投ズ。孔中幸ニ水ナシ、  
 約瑟孔中ニ在リ、餅ヲ食ヒ、以テ飢ヲ療ス。偶々以實馬  
 利ノ商人、群駝ヲ牽テ此所ニ至レリ、猶大其兄弟ニ謂  
 テ曰ク、彼實ニ我骨肉ノ親ナリ。是ヲ殺スモ、我ニ於テ、  
 何ノ益カアラニ。若カズ彼ヲ以テ、以實馬利人ニ賣與

センニハト、是ニ於テ兄弟相與ニ、約瑟ヲ孔中ヨリ出  
 シ、之ヲ以實馬利人ニ鬻ク。約瑟哀歎スレドモ可カズ、  
 己ムコトヲ得ズ、商人ニ從テ埃及ニ赴ク。是ニ於テ諸兄、  
 約瑟ノ衣ヲ、牡山羊ノ血ニ浸シ、持シテ其父ニ示シテ  
 曰ク、今我儕途ニ於テ此衣ヲ得タリ、知ラズ果シテ父  
 ガ子ノ衣ナリヤト、雅各其衣ヲ見テ号哭シテ曰ク、是  
 レ真ニ我子ノ衣ナリ、必ラズ野獸ニ噬マル、者ナラ  
 ント、直チニ己ガ衣ヲ裂キ、深ク哀痛スルハ己ガ衣  
 ヲ裂クハ、以色列人ノ風習ナリ。悲痛哀傷自ラ勝ルコ  
 能ハズ、諸子皆来リテ慰諭スレ、凡少シモ聞カズ、曰ク



壙中ニ入テ我子ニ從フニ非サレバ余ガ悲哀ハ己ム  
期ナシト

○以實馬利人約瑟ヲ以テ埃及ノ大族波提乏ニ賣與  
ス約瑟誠實ヲ以テ其主人ニ事ス上帝之ヲ知り約瑟  
ヲ祐クルヲ甚ダ厚シ波提乏亦約瑟ヲ愛スルヲ他ニ  
超エタリ然ルニ波提乏ノ妻々惡ニシテ約瑟ヲ惡ニ  
誘カントス約瑟肯ニゼズレテ曰ク吾安ニゾ此惡事  
ヲ為シテ罪ヲ上帝ニ獲ベケンヤト主母益々逼リ直  
ニ約瑟ノ衣ヲ執ル約瑟主母ヲ衝キ放シ衣ヲ棄テ遁  
レ去ル主母大ニ悲リ約瑟ヲ其夫ニ讒シテ曰ク彼レ

余ニ逼リテ惡ヲ為サントス其證茲ニ在リト其衣ヲ  
出シテ夫ニ示ス波提乏大ニ怒リ直チニ約瑟ヲ捕メ  
之ヲ獄ニ下ス上帝約瑟ヲ憐ミ司獄者ヲシテ約瑟ヲ  
矜恤セシム司獄者約瑟ニ命ジテ悉ク獄囚ヲ掌理セ  
シム此時埃及王ノ膳長酒正共ニ法ヲ犯シテ獄ニ下  
ル二人共ニ惡夢ヲ得心甚ダ之ヲ憂フ約瑟二人ニ問  
フテ其夢狀ヲ知り為メニ其吉凶ヲ判ス約瑟ノ判ス  
ル処盡ク應アリテ膳長ハ木ニ懸ラレ酒正ハ放赦セ  
ラル

○其後幾モナリシテ埃及王法老一夜ニ兩夢ヲ夢ム

七牛ノ肥美ナルアリ、更ニ七牛ノ羸瘠ナルアリテ、盡肥美ナル者ヲ吞ム、又七穗ノ充實セルアリ、更ニ七穗ノ枯弱ナルアリテ、却テ其充實セル者ヲ吞ム、法老國中ノ博士占夢ヲ召シテ、之ヲ問フニ、其兆ヲ知ル者ナシ、此時酒正、約瑟ノ言ヲ憶ヒ、之ヲ王ニ薦ム、王、約瑟ヲ獄ヨリ出シ、問フニ、夢兆ヲ以テス、約瑟曰ク、七牛ノ肥美ナルト七穗ノ充實セルトハ、此後七年ノ豊稔アルノ兆ナリ、七牛ノ羸瘠ナルト七穗ノ枯弱ナルトハ、其後七年ノ凶荒アルノ兆ナリ、其凶荒ニ曰テ前ノ豊稔ハ人皆之ヲ忘ルベシト、又法老ニ謂テ曰ク、宜ク豊歲

有餘ノ穀ヲ貯ヘ、以テ後來凶荒ノ備ニ禦ツベシト、

○埃及王、約瑟ガ占夢ノ言ト、儲粟ノ説ヲ聞テ大ニ感服シ、約瑟ニ命ジテ、國中ノ粟ヲ聚メテ、之ヲ儲ヘシム、又約瑟ニ謂テ曰ク、予汝ヲシテ、埃及ノ全國ヲ紗宰セシム、我國人ヲシテ盡ク汝ガ命ヲ聽カシメシト、是ニ於テ、金鐐ヲ約瑟ノ指ニ挿シ、金索ヲ約瑟ノ頸ニ垂シ、是ヲ第二輅ニ乗セテ所々ヲ巡行セシム、約瑟ヲ号シテ、本國ノ父ト稱セシム、

○埃及國ニ於テハ、約瑟ノ言ノ如ク、七年豊熟ノ後、凶荒荐リニ至ル、此時迦南ニ於テモ年連リニ實ラズ、雅

各ノ諸子、埃及ニ儲粟アリト聞キ、往テ穀ヲ買ハント  
欲ス、獨リ季弟便雅憫ヲ留メ、其餘ノ兄弟ハ、盡ク埃及  
ニ赴ク、約瑟、埃及ノ國宰タリシヲ以テ、皆來リテ拜謁  
シ、其約瑟タルヲ知ラズ、之ヲ尊敬シテ其前ニ拜跪  
ス、約瑟ハ早ク之ヲ知ルト雖モ、佯ツテ知ラザル状ヲ  
為シ、夫ヲシテ、其悔心ヲ發シ、善ニ遷ラシメント欲シ、  
其兄弟ヲ責メテ敵ノ間諜ト為シ、盡ク之ヲ獄ニ下ス、  
其後其九人ヲ獄ヨリ出シ、一人ヲ獄中ニ留メ、季弟便  
雅憫ヲ伴フテ來ルヲ待テ、前ニ言フ処ノ真偽ヲ證ス  
ル為メノ質ト為ス。

○九人國ニ歸リ、具サニ其事ヲ父ニ告ク、雅各咨嗟流  
涕シテ曰ク、爾曹ハ、將ニ盡ク余ガ子ヲ殺サントスル  
カ、約瑟ハ既ニ死シ、西面ハ囚繫セラレ、約瑟ノ獄ニ留  
メシハ西面ナリ  
今又使雅憫ヲ取り去ラント欲ス、嗚呼上帝、願クハ  
此子ヲ助ケヨ、余決シテ此子ヲ遣ルヲ欲セス、若シ  
使雅憫不測ノ禍ニ罹ルヲアラバ、余ガ瞽然タル白首、  
此憂苦ニ因テ、忽チ墳墓ニ歸スベシ、  
○埃及ヨリ取ル処ノ穀已ニ盡キシカバ、使雅憫ヲ伴  
ヒ、更ニ埃及ヨリ穀ヲ買ハサルヲ得サルニ至レリ、  
雅各歎ジテ曰ク、已ナニ已ナニ、上帝ノ名ヲ念ジテ行

クベシ、上帝ノ大能力、能ク汝ノ身ヲ加護スルコトアラ  
ニ、爾曹ノ未ダ歸ラサル間ハ、余ハ竢然子ナキノ一老  
父ナリ。

○兄弟遂ニ便雅憫ヲ伴フテ埃及ニ赴キ、約瑟ノ邸ニ  
至リ、約瑟ノ前ニ俯伏ス。約瑟、便雅憫ヲ見テ、直チニ走  
リテ接吻シ、室中ニ入りテ哭ス。其後再ヒ室中ヲ出テ、  
食饌ヲ設ク、約瑟其兄弟ト共ニ食ニ就ク。長幼ヲ以テ  
序ヲ為シテ席ヲ列ス。兄弟皆驚ク。然レモ亦埃及王ノ  
厚意ヲ以テ之ヲ饋ル者ナリトセリ。

○約瑟猶情ヲ忍ニテ兄弟ヲ試シ、ト欲シ、竊ニ金ヲ

其囊中ニ納レ、更ニ銀杯ヲ以テ、便雅憫ノ囊中ニ入ル。  
兄弟已ニ邑ヲ發シテ歸路ニ赴キ、未ダ遠カラサルニ、  
急ニ人ヲシテ之ヲ追ハシメ、盜ヲ以テ之ヲ責ム。兄弟  
皆其盜セザルヲ證シ、若シ銀杯、我儕ノ囊中ニ在ラバ、  
其者ハ死刑ニ就キ、他ノ者ハ奴隸ト為ルベシト誓ハ、  
是ニ於テ、追者、諸子ノ囊ヲ探リシニ、便雅憫ノ囊中ニ  
銀杯ヲ得タリ。諸子大ニ驚キ、各其衣ヲ裂キ、再ヒ鞞ヲ  
馱背ニ馱シ、埃及ノ邑ニ返リ、約瑟ノ所ニ至ル。約瑟責  
メテ曰ク、爾等何為ソ。此ノ如キ事ヲ為スヤ、猶大恐レ  
テ答テ曰ク、上帝我儕ノ罪ヲ指摘シ、銀杯ヲ囊中ヨリ

出サシム、今我儕盡ク君ノ奴隸ト為ラニ、約瑟曰ク、否  
大、獨リ銀杯ヲ盗ム者ノミ予ガ奴隸ト為リ、其他ハ悉  
ク歸リテ、父ノ所ニ至ルベシ、是ニ於テ、諸子、約瑟ノ傍  
ニ近キ、謂テ曰ク、我父便雅憫ヲ愛スル一殊ニ甚シ、若  
シ便雅憫還ラズト聞カバ、我父悲哀シテ、性命ヲ失フ  
ニ至ルベシ、然ル氏ハ、我儕ノ罪タル、其如何ゾヤ、吾儕  
季弟ヲ伴ハズニバ、決シテ家ニ歸ル一能ハズ、若レ吾  
儕歸リテ、季弟獨リ歸ラズニバ、父ノ死ヲ促ガス一必  
セリ、約瑟其兄弟ノ悲嗟スルヲ見テ、自ラ勝ル一能ハ  
ズ、乃チ其兄弟ニ謂テ曰ク、吾ハ約瑟ナリ、吾父尚存在

セルカト、言訖テ、淚滂々トシテ下ル、諸兄弟嘗テ殘雇  
ヲ以テ、約瑟ニ辱セシヲ以テ、皆懼レテ口ヲ開ク一能  
ハズ、約瑟曰ク、恐ル、一勿レ、昔シ諸兄ノ余ヲ埃及ニ  
鬻キシハ、蓋シ上帝、爾ニ先ツテ此地ニ來ラシメ、以テ  
爾カ困窮ヲ救ハシメントセシ者ナリ、爾速カニ還リ  
テ、此事ヲ父ニ語り、父ヲ伴フテ來リ、永ク此地ニ居住  
スベシ、

○雅各ハ家ニ在テ日ニ諸子ノ歸ルヲ待チシガ、忽チ  
諸子便雅憫ト共ニ歸リ來リ、且ツ其父ニ告テ曰ク、約  
瑟尚生存シ、埃及國ノ宰タリト、雅各久シク約瑟ヲ以

テ死セリトヒレカバ、敢テ其言ヲ信セス、然レ戸外ニ約瑟ノ送ル処ノ王輅アルヲ見テ、始メテ夢ノ覺タルガ如ク、躍然トシテ曰ク、約瑟猶在リ、我未ダ死セザルニ及ビ、必ラバ往テ彼ヲ見ント、悉ク其家族ヲ携テ埃及ニ赴ク、既ニ埃及ニ至リ、父子相逢ス、其喜ビ知ルベキナリ、埃及王、雅各ノ一家ニ賜フニ、ゲゼン珂山ノ地ヲ以テス、珂山ハ下埃及ノ肥美ナル牧地ナリ、約瑟又能ク其父兄ヲ看テ、匱乏ノ事ナカラシム。

○是ヨリ雅各ノ一族、盡ク埃及ニ遷リテ、其居ヲ定ム、埃及ハ當時ノ大國ナリ、故ニ是ヨリ埃及ノ事ヲ説キ、

其後ニ至リ、更ニ以色列ノ事ニ及ブベシ、

第十四

埃及ノ史

地勢

○埃及ハ亞弗利加ノ東北ニ在リ、其中土ハ肥沃ナレ、エチオピア厄、東西ニ距ルニ從ヒ、漸々ニ枯瘠ノ壤ト為ル、西方ハ利未亞ノ大荒土ニ接シ、唯渺々タル沙漠ヲ見ルノニテ、絶テ人獸ノ聲ヲ聞クコトナシ、然レ厄其間稀レニ樹木青草ナキニ非ズ、東方ハ、アラビヤ亞喇伯ニ連リ、石地磽确ニシテ、耕種ニ適セス、此石地ト沙漠トノ間ノ地、即チ

埃及ノ沃壤ニシテ、其地勢恰モ大洋中ニ鳴嶼アルカ  
如シ、此中土ノ肥沃ナル所以ハ、全ク泥祿河ノ灌溉ニ  
目テ、然ルヲ致ス者ナリ、此泥祿河ハ、埃及ノ地ヲ中貫  
シ、南方ヨリ、北方ニ向テ流ル、大河ナリ、埃及ハ、本ト  
雨露ノ甚ダ稀ナル地ナレバ、此河ノ灌溉ナキ時ハ、其  
中土モ亦必ラズ枯瘠ノ早壤ト為ルベシ、故ニ土人甚  
ダ此河ヲ崇ミ、之ヲ奉ジテ神トスルニ至レリ、此河源  
ヲ以テ阿比ノ諸山ニ發シ、大抵一直ニ埃及ノ中土ヲ  
貫キ、其末七派ヲ分ツテ地中海ニ入ル、但シ方今ハ、其  
七派合シテ二派ト為リ、一ヲ最義的トイヒ、一ヲ羅色

的ト云フ、此七派ノ内、其首流二派ノ間ニ在ル土地、其  
形三角ヲ為スヲ以テ、之ヲ特尔答トイフ、希臘ニテ「テ  
ルタトイール」文字ハ、其形三角ナルヲ以テナリ、  
○泥祿河ハ、其漲涸大ニ他川ニ異ナリ、歳ノ十二月ヨ  
リ三月ニ至ルニテハ、他ノ諸川悉ク盈漲ス、此河獨リ  
耗涸シ、河身ノ廣サ、常度ヲ守リ、徐々ニ流下ス、其後以  
別阿比ノ諸山、霖雨連リニ降ルニ及ビ、此河水漸々ニ  
漲溢シ、八月ニ至レバ、河身左右ニ開ク、其幾里ヲ知  
ラズ、殆ニト埃及ノ全國ヲ浸シテ灌流ス、故ニ此國ハ、  
八月ヨリ十月ニ至レバ、全國汪洋トシテ海ノ如ク、唯

都邑ノ如ク島嶼ノ如ク水上ニ挺出ス。土人盡ク舟艇ニ乘リ、歡喜シテ其水面ヲ遊泗ス。漲溢ノ勢此ノ如ク甚シト雖、上帝決シテ害ヲ人民ニ加フルナシ。此漲溢退クノ後、其迹ニ膏腴ノ泥ヲ残留シ、百物ノ能ク生熟スルヲ、他ノ人カヲ盡セシ土地ニ勝ルヲ多シ。十二月ニ至レバ、穀物暢茂シ、麻苧蕃生ス。正月ニ、葡萄蔓ヲ抽ニテ、二月ニ橙樹實ヲ結ビ、三月ヨリ穀物ノ收成ヲ始メ、四月ニ至リテ終リ、六月ニ至レバ、葡萄成熟ス。此ノ如ク諸物ノ生成スル、總テ泥祿河漲溢ノ力ニ頼ル。雅各ノ諸子、埃及ニ在天收ムル処ノ穀ハ即チ是ナリ。

○土地ノ肥沃ハ、泥祿河ノ力ニ頼ルヲ以テ、此河ノ兩岸ニハ、都邑村落殊ニ多シ。下埃及、一名特爾答ノ地ハ、本ト海水ノ浸漲ニ因テ成リシ処ニシテ、國中ニ於テ最モ肥膏ノ地ナリ。此地ノ都邑ハ、賽斯ヲ以テ第一トシ、中埃及ニ於テハ孟斐斯、上埃及ニ於テハ得巴斯ヲ以テ最大トス。此得巴斯ハ、旧時ハ、一百ノ郭門アリ。方今猶廢瓦壞礎ノ山積スルヲ見レバ、古代ノ盛大ヲ察スベシ。泥祿河ニ遠キ処ノ民ハ、又幾多ノ溝渠ヲ開キ、此河水ヲ導キ、以テ灌溉ノ利ヲ資レリ。

○埃及ノ地ハ、材木ニ乏キヲ以テ、大ナル海船ヲ造ル



一能ハズ其船舶ノ通行ハ唯泥祿河ノ運漕ニ止レル  
ノ之埃及人ハ亦他國ノ船ヲ禁ジテ此河濱ニ近ヅク  
一ヲ得ザラシム蓋シ此比ノ海客ハ多ク盜賊ヲ為セ  
シヲ以テ是ヲ禁ゼシ者ナリ

○埃及ノ植物ニ於テハ「麻」ノヲ以テ第一トス  
國人此草ノ纖維ヲ取り精細ナル布ヲ織ル他國ノ人  
亦此布ヲ賞用シテ之ヲ買フ者多シ羅馬ノ皇帝嘗テ  
野豬獵ノ為ニ此布ヲ以テ獵衣ヲ製ス是ヲ褶疊ス  
ル氏ハ其紐ヲ合セテ能ク指鐐ノ内ヲ通貫スベシ又  
紙草パピルストイフ者アリ此草ハ全身棄ツベキ処ナシ根ハ

以テ薪材ト爲スベク莖ハ内ニ人ヲ滋養スルノ液ヲ  
含シ皮ハ以テ紙ヲ作ルベシ其紙ヲ作ルハ第二皮ナ  
リ土人此皮ヲ剝シ其纖維ヲ相並ベテ排列シ泥祿河  
ノ水ヲ温メテ之ニ沃ギ其上ニ更ニ第二層ノ皮ヲ横  
ニ排列シ合セテ之ヲ搾シ全ク乾燥セル後之ヲ平カ  
ニ延張シ是ニテ紙ノ製作成ル古代ハ此紙大ニ諸國  
ニ弘マリ後三百年布片ヲ以テ紙ヲ製スルノ法起ル  
ニ及ブマテ皆之ヲ用ヒタリ○古代ノ羅馬ノ民ハ物  
ヲ書スルニ樹皮ヲ用ス己ニ書キ終ルノ後ハ卷テ之  
ヲ貯藏ス故ニ羅馬語ニテ「リベ」ル或ハ「コデクス」トイヘ

ルハ、書籍或ハ樹皮ノ義ナリ。ホルメントハ、圓柱及ビ  
帶ノ義ナリ。希臘人ハ、物ヲ書スルニ「ビブルス草ノ葉  
ヲ用フ、聖經ヲ「ビイブル」書庫ヲ「ビブリヲテ」キトイ  
フハ、其源是ニ出ヅ。小亞細亞ノ百駕摩人ハ、獸皮ヲ製  
シテ紙ヲ造リ、其實緻密ニシテ、能ク物ヲ書クニ適ス。  
古代ノ民、獸皮ニ物ヲ書ク者多シ。然レモ未ダ能ク之  
ヲ精製スルヲ百駕摩人ノ如キヲ見ス。故ニ當時此熟  
皮紙ヲ名ケテ「トルガメント」トイフ。又此外、古代ニハ  
金類及ビ石面ニ物ヲ書スルヲアリ、摩西法律ヲ二片  
ノ石案上ニ記セシトイフヲアリ、其石面ニ書スルニ

ハ、石筆ノ一種ヲ用ス。希臘羅馬ノ語ニ、此石筆ヲ「ステ  
ロスト」名ク。近世ノ語ニ、書法ヲ「スチール」ト云フハ、其  
源ヲ爰ニ取ル。此石筆ハ、方今用フル筆ノ如ク、其頭ヲ  
尖銳ニセシ者ナリ。紙ノ料ト為ル者、堅キ時ハ、筆ノ料  
ト為ル者、益々堅カラザルベカラズ。總テ物ヲ書スル  
ハ、文字ヲ以テ、紙面ヲ蝕スルナリ。故ニ目今ニ至リテ  
モ、彫鏤ノ工ヲ施スヲ、名ケテ蝕スト云フ

第十五

埃及人ノ圖象ノ符号

○未ダ文字ナキ以前、埃及ノ民ハ、物ヲ人ニ示サント

スルニ、必ス其形ヲ圖シテ之ヲ示ス。然レ凡其初ノハ、  
其法甚ダ拙シ。譬バ獅子ヲ画テ、真ノ獅子アルヲ示  
シ、眼ヲ画テ、真ノ眼アルヲ示スノ類ナリ。然レ凡一  
物ヲ示スニ、必ラズ其物ノ全形ヲ画ク氏ハ、時ヲ費シ  
功ヲ勞スルヲ以テ、其圖ヲ簡縮シテ、其意ヲ通ズルヲ  
ヲ工夫シ、夫ヨリ以来ハ、敢テ物ノ全形ヲ画カズ。唯其  
要部ノミヲ画キ、以テ全形ニ代ス。故ニ人頭ヲ画キテ  
人タルヲ示シ、鉤梯ヲ画キテ、攻城タルヲ示シ、盾  
ト弓トヲ取レル兩手ヲ画キテ、野戰タルヲ示ス。此  
ノ如キ圖象ノ法ヲ以テ、天下ノ百物ヲ示シ、以テ民生

日用ノ務ヲ辨ス

○然ルニ天下ノ萬物或ハ圖象ヲ以テ示シ難キ者ア  
リ、譬ハバ、威猛、警守、強力、勉勵等ノ義ノ如キハ、之ヲ圖  
象ニ顯ハスヲ甚タ難シ。故ニ此ノ如キ者ヲ示サント  
スルニハ、必ラズ比類法ヲ用ヒ、天造物ノ内ニ於テ、殊  
ニ其事ニ抽ンデタル者ヲ取り、是ヲ圖シテ以テ其義  
ヲ顯ハス。威猛ハ獅ニ過クル者ナク、強力ハ牡牛ニ過  
ル者ナキヲ以テ、威猛ノ義ヲ示スニハ獅ヲ画キ、強力  
ノ義ヲ示スニハ牡牛ヲ画ク。其他開キタル眼ヲ画キ  
テ、未來ヲ前見スルノ義ヲ示シ、仰卧シテ閉目セル人

ヲ画キテ、睡眠又ハ死亡ノ義ヲ示ス、又或ハ一圖ヲ以テ、其事ノ全旨ヲ示ス者アリ。西班牙人、初ノテ墨西哥ニ至リシ時、濱海ノ土人、異邦ノ海客ノ来リシヲ其王ニ告ルガ為メ、西班牙ノ海船ノ状ト、西班牙人ノ装甲セル状トヲ画キ、人ヲ馳テ之ヲ王ニ告グ、王其圖ヲ見テ、直ニ其事ヲ了解セシトナリ。

○然ルニ天下萬物ノ内ニ於テ、比類法ヲ用ントスレバ、亦比類スベキ者ナキトアリ、此ノ如キ物ニ至テハ、猶其上ニ一步ヲ進メ、假リニ目前ニ現ハル、物ヲ画キ、以テ目前ニナキ物ヲ想像シテ、其意ヲ會セシム。○

埃及ノ民ノミナラズ、其他諸國ノ民、亦此法ヲ以テ、其意ヲ他人ニ達スル者多シ。

○圖象ノ法、年代ヲ經ルニ随ヒ、其意味漸々ニ解シ難キニ至ル、其圖象ハ、此人ノ用フル者ト、彼人ノ用フル者ト、其法全ク異ナル者アリ、或ハ全ク之ヲ用フルヲ知ラザル者アリ、唯埃及ノ祭司ハ、盡ク能ク解シテ之ヲ用ス、祭司ノ用フル處ナルヲ以テ、此圖象ノ法又ヒ、ログリフト名久、神聖ノ書トイハル義ナリ、此圖象ノ法ノ、今日猶留存スル者アレバ、世ノ博物者、未ダ盡ク其義ヲ了解シ得ル者ナシ。○鑄版ノ法ヲ發明

セシヨリ、然テ古代ノ圖象ノ如キ、不使利ノ法ハ、悉ク  
廢棄セリ、文字ナル者ハ、本ト圖象ノ最モ小ナル者ナ  
リ、然レ氏、是ヲ以テ意味ヲ示スル能ハズ、唯言語ノ音  
ヲ標スルノミ、此文字ヲ許多編組集合スルルハ、天下  
ノ萬物、人心ノ意想、詳密ニ之ヲ顯ハスル能ハサル者  
ナシ、文字ノ發明ノ一付テハ、試ミニ支那人ト比シ  
テ考フル時ハ、其要用便利、何レカ勝レル、支那ニハ、意  
義ノ字ノミアリテ、音ノ字ナシ、故ニ一義必ラズ一字  
ナキヲ能ハズ、吾儕萬事ヲ知り、萬物ヲ記スル爲メニ、  
僅カ二十四字ヲ學ブノミナレ氏、支那人ハ、八萬字ヲ

學バサレバ、是ヲ爲レ得ルヲ能ハズ、能ク盡ク此文字  
ヲ讀ミ、能ク其義ヲ解スル者ハ、之ヲ名ケテ文學者ト  
イフ、通常ノ人ハ、白首ニ至ラザレバ、盡ク之ヲ學ビ得  
ルヲ能ハズ、西方ノ諸國ニ至テハ、童子六七歳ニ至レ  
バ、皆能文字ヲ讀ミ得ベシ、故ニ文學者ニ非ズト雖、氏  
書ヲ讀ハル能ハサル者ナシ、是ヲ以テ考フレバ、初メ  
テ文字ヲ造リ、童子トイハレ、容易ニ之ヲ讀ミ之ヲ書  
クヲ得セシメシ者ハ、真ニ希代ノ偉人ナルニシ、然  
レ氏、今日ニ至リテハ、其發明セシ者ハ、誰タルヲ確  
定スルヲ能ハズ、古代ノ史家、大抵非尼西ノ韃多人名ヲ

以テ、文字ノ作ルノ祖ト爲ス。此人ハ、耶穌生前二千年ノ頃ノ人ナリ。其後ニ至リ、文字ノ發明ヲ以テ、或ハ埃及人ニ在リトシ、或ハ非尼西人ニ在リトシ。竟ニ之ヲ一定スルコト能ハズ。耶穌生前一千五百年、非尼西人、加鐸慕士<sup>ハハ</sup>初メテ文字ヲ希臘ニ傳ス。其文字タル希臘希伯來非尼西皆同様ナルヲ見レバ、其源ノ一ニ出シ、疑フニカラザルニ似タリ。希臘人此文字ヲ以テ羅馬人ニ傳ヘ、羅馬人ヨリシテ、之ヲ我諸國<sup>歐羅巴諸國ヲ指ス</sup>ニ傳ス。是レ我諸國ノ文字ハ羅馬即チ拉丁人ト同キ所以ナリ。獨逸語ニテハ、文字ヲアツクスタートイフ、

ツクハ推樹ノ義。スターバハ材ノ義。古代ノ獨逸ノ民ハ、多ク文字ヲ推材ニ刻セシヲ以テ、此名ヲ得タリ。文字ノ發明以來、唯是ヲ以テ、其意ヲ通スルノミナラズ、百千年ノ往事ト雖、能ク之ニ依テ、之ヲ考フルコトヲ得ベク、又我儕ノ言行ノ卓越セル者ハ、其身体ト共ニ朽腐セズ、是ニ依テ、能ク後世ニ傳フルコトヲ得ベシ。

第十六

埃及人ノ建築術

○埃及人ハ能ク巨大ノ建築ヲ作シ、以テ天下ノ耳目ヲ驚カセリ、其今日ニ留存スル者、左ノ如シ。

新西史鑑 卷三

第一 高碑 埃及ノ高碑ハ其形四角ニシテ上

端尖銳ヲ爲セル者ナリ其高サ跌石ヲ除キテ五十尺ヨリ百八十尺ニ至リ其横徑ハ下部ニ於テ方五尺ヨリ二十五尺ニ至ル此ノ如キ巨大ノ碑石唯一片ノ花剛石ヲ以テ鑿成セリ

珀尔屈曰ク花剛石ハ他ノ礦物ト異ニシテ其内ニ介殼ノ化石草木ノ遺形等ヲ見ルヲ以テ故ニ此石ハ必ラス大洪水以前ノ物ニシテ他ノ礦物ノ如ク洪水ノ蕩激ニ因テ成リシ物ニ非ザルヲ知ルベシ

其初メ亞刺伯ノ石礦ニ於テ此碑ヲ鑿成シ泥祿河ノ漲溢ニ乗リ筏ニ載セテ之ヲ浮ベ其後嘗テ開ク処ノ溝渠ノ内ヲ通ジテ其定ムル処ノ地ニ之ヲ送ル其是ヲ鑿成シ是ヲ輸送スルニ幾千万人ノ力ヲ勞セシカ殆ニ測ルベカラズ是ヲ筏ヨリ下シ是ヲ建立スルニ又幾千万人ノ力ヲ勞セシカ是又之ヲ測ルベカラズ其後精密ニ之ヲ磨礪シ其面ニ圖象ノ字ヲ刻シ其二始テ竣ル此高碑ハ寺觀第邸宮室ノ前ニ建立シ或ハ以テ一時ノ盛舉ヲ示シ或ハ以テ其所ノ文飾ト為ス後年ニ至テハ土人ノ以テ日晷ヲ測ルノ用為ス

新西史鑑 卷三 廿二

○皇帝與古士都及ビ後嗣ノ諸帝、許多ノ人カヲ費シテ、此高碑ヲ羅馬ニ遷セリ、耶穌降世四百年ノ此、獷悍ノ夷狄、羅馬ヲ攻陷剽滅シ、是ニ依テ、此高碑モ亦敗瓦ト共ニ顛倒狼藉タリ、一千五百八十五年、教王施克斯多、第五再ビ之ヲ掘リ出シ、其四基ヲ得、當時建築ノ大家、豐答那ニ命ジテ、更ニ之ヲ建立セシム、豐答那奇巧ナル器械ヲ作り、八百ノ人カト、一百八十六ノ馬カトヲ用ヒ、四年ヲ經テ、初メテ其功ヲ成セリ、

第二

石塔

石塔ハ、高碑ニ比スレバ、其工更ニ偉大ニシテ、上古ノ時、世取奇觀ノ一ト為セリ、中埃

及ニ在テ、是ヲ五區ニ分ツ、其數合セテ四十アリ、其形ハ、大ナル四角ノ石塔ニシテ、内ニ多クノ通路ト、房室トヲ開キ、其位置ハ、正シク四方ニ面シ、下部ハ、甚ク廣大ニシテ、上部ニ至ルニ從ヒ、漸々ニ尖銳ト為リ、其頂ハ、匾平ナル屋ヲ以テ掩ス、其材料ハ、巨大ナル粉石ヲ用ヒ、之ヲ層々ニ疊列シ、唯其重サノニテ、之ヲ固定ス、或ハ花剛石雲石ヲ以テ、其外面ヲ被覆スル者アリ、此内孟斐斯ノ西北ニ在ル三塔ハ、最モ巨大ナリ、其高サ六百尺ニシテ、是ヲ二百尺ノ基礎ノ上ニ建ツ、塔ニ階級アリ、踏ニテ以テ頂上ニ登ルヲ得ベシ、此ノ如



キ大塔ヲ作ルニハ、十万人ノ工人、二十年ノ間、間断ナ  
ク工作ニ從事スルニ非サレバ、成功ニ至リ難シトイ  
ヘリ。近令ノ推算ニ據ルニ、此塔ヲ作ル建築ノ材料ヲ  
以テ、西班牙全國ノ周圍ニ、墻壁ヲ繞ラシ得ベシトナ  
リ。

○此ノ如キ巨大ノ造作ハ、當時何ノ用ニ供セシ者カ、  
今ニ至テハ、之ヲ詳ニスルヲ能ハズ。或ハ以テ穀ヲ貯  
藏スル倉廩ト為シ、或ハ以テ國王ノ威ヲ示スノ文飾  
ニシテ、國王其民ヲ勞役ニ從事セシメテ、以テ之ヲ駕  
馭セシ者ナリトス。禮拜者ノ耶路撒冷ニ行ク者、此石

塔ヲ見テ、皆恐喜シテ其偉觀ヲ稱シ、巴底倫ノ塔ヲ見  
ルノ想ヒヲ為セリトイフ。今又按ズルニ、此石塔ハ、蓋  
シ國王ノ墳墓ナルニシ、埃及人ハ、墳墓ノ外ニハ、此ノ  
如ク力ヲ竭シテ營造セル者ナシ、此國人ハ謂ヘラク、  
人死スルノ後モ、魂魄ハ、猶体中ニ留セリ、体ノ腐壞セ  
ザルノ間ハ、消散スルヲナシト、是ヲ以テ、墳墓ニハ、最  
モ深ク意ヲ用ヒ、大抵是ヲ高山ノ上ニ作り、以テ泥祿  
河ノ漲溢ノ患ヲ避ケシメ、且ツ野獸ノ害ヲ防グガ為  
メニ、重大ノ岩石ヲ以テ、其上ヲ覆ス。國王ハ、生存ノ時、  
其尊貴既ニ諸人ノ上ニ在レバ、死スル時ハ、其墳墓亦

諸人ニ勝レテ堅牢美麗ナラザルベカラズ然レハ此ノ如キ高崇ノ建築ヲ以テ其屍ヲ藏スルハ亦理ノ然ルベキモノナリ凡ソ埃及人ハ香料ヲ軟膏ニ和シテ之ヲ死体ニ塗擦シ以テ其腐壞ヲ防ギ且ツ之ヲ堅硬ニシ之ヲ透明ニスベキ藥料ノ内ニ浸シ後ニ之ヲ墓中ニ葬ル此ノ如ク塗膏セル死体ヲ波斯語ニテ莫晒ト名ク此死体後人多ク之ヲ珍藏シ或ハ學校ノ秘庫ニ藏シ以テ異聞ヲ好ム者ノ觀ニ供ス此死体ノ今ニ存スル者ヲ見ルニ皮膚ハ全ク黒色ト為リ樹脂ノ氣体中ニ浸徹シ全身盡ク化石狀ニ變ゼリ埃及人ハ賓

客ヲ饗スル時或ハ此死体ヲ出シテ客ニ示シ客ノ之ヲ見ル者互ニ其品ノ貴重ヲ賞譽ス埃及人ハ都テ生存セル間ノ居所ヲ名ケテ旅舎ト為シ死後ノ墳墓ヲ名ケテ永久ノ居宅ト為ス國中ニ死後ノ審院トイフアリテ内ニ四十人ノ審官アル人死スル時ハ其生前ノ行事ヲ考察シテ葬禮ヲ行フヲ許スベキヤ否ヤヲ判決ス國王ト雖モ隨意ニ葬禮ヲ營ムヲ得ズ是蓋シ人君ヲシテ此民ニ善政ヲ行ハシムベキ嚴法ナリ埃及人ハ此死後ノ考察アルヲ以テ生前ニ能ク其身ヲ慎ミ放肆恣睢ヲ為ス少シ又其人ノ性タル思

慮鎮密ニシテ精神鬱結セル者多シ節期ノ祭儀アリト  
雖氏是ニ曰テ其志氣ヲ開豁ニスルヲ能ハズ

第三

廣第

是ハ前ノ二物ノ如ク上古ノ物ニ

非ザレバ其名ハ前ノ二物ト同ク世ニ稱セラレ此廣  
第八都テ十二屋アリテ六屋ハ北ニ面シ六屋ハ南ニ  
面ス内ニ房室ヲ開クト三千ニシテ一千五百ハ地上  
ニ開キ一千五百ハ地底ニ開ク精巧ナル彫像ト美麗  
ナル寶石トヲ以テ其内ヲ文飾ス此廣第目今ハ盡ク  
破壊シテ毀垣壞礎ヲ留ムルノミ

第十七

埃及ノ民種

祭司

獸畜ノ崇奉

○埃及ノ古代ノ民ハ其居ル処ノ地性ニ從テ各其生  
業ヲ營ム泥祿河畔ニ住ム者ハ捕魚ヲ業トシ特爾答  
ニ住ム者ハ耕種ヲ業トシ東方ノ山谷間ニ住ム者ハ  
牧畜ヲ業トス其民族各其居ヲ異ニシ且ツ互ニ羈絆  
スルヲナク以テ其生ヲ遂クルヲ以テ其生ヲ營ムノ  
業父祖ヨリ子孫ニ至リ自ラ世及ノ業ト為ル其後他  
國ノ民羣ヲ成シ兵威ヲ以テ來リ居ヲ此國ニ定メシ  
ヨリ時ヲ經ルニ從ヒ別ニ軍士トイヘル民種ヲ成ス  
國王法老ト此軍士ノ種族中ヨリ撰拔セシ者ナリ祭

司ノ職ハ國王ヲ教導スルヲ以テ務メトス。是ヨリ年  
時ヲ經ルニ及ビ、埃及ノ全國盡ク一王ノ政令ヲ奉ズ  
ルニ至リシカドモ、國民ノ種族ハ、旧時ノ如ク、其生業  
ノ異ナルニ從ヒ、之ヲ數種ニ分テリ。若シ其父、或ハ祭  
司、或ハ軍士、或ハ牧人ニシテ、其子タル者、其業ヲ好マ  
ズ、又ハ他ノ旨趣アリテ、其業ヲ繼<sub>リ</sub>テ、欲ヒズト雖<sub>モ</sub>、  
轉ジテ他業ヲ營ム<sub>ル</sub>能ハス。此ノ如ク父子相承ル<sub>ル</sub>處  
ノ種族ヲ、<sup>ポルトガル</sup>葡萄牙ノ語ニテ、<sup>カス</sup>加的トイフ。此、加的<sub>ノ</sub>初  
メハ六種ナリシガ、後ニ増シテ七種ト為ル。此内ニ於  
テ祭司ノ種族ヲ、最モ貴シトス。祭司ハ、王ヲ教導輔佐

シ、法度律令ヲ定ムルノミナラズ、又泥祿河漲溢ノ時  
ヲ測リ、天度ヲ推算シテ、年月ヲ紀シ、曆法ヲ作ル。故ニ  
祭司トイフ者ハ、約シテ之ヲ言ハハ國ノ智識ナリ。是  
ニ次ク、<sub>ハ</sub>種族ハ、軍士ナリ、而シテ國王ハ、常ニ軍士  
ノ種族中ヨリ撰立ス。國中ニ於テ、土地ヲ有スル者ハ、  
國王ト祭司ノミニテ、其他ハ盡ク土地ヲ借ル者ナリ。  
故ニ國中ニ於テ、最モ此二種族ヲ尊重ス。牧畜ハ、國民  
中最下ノ種族ニシテ、他族ノ民、多ク之ヲ賤辱ス。旧時  
牧畜種族ノ長希<sup>ヒ</sup>素<sup>ス</sup>トイフ者、他國ヨリ、大ニ此國ニ  
侵入セシハ、蓋シ此種ノ民、久シク埃及人ノ賤辱ヲ受

ケレラ悲リレヨリ出シナルニシ、民ノ種族ヲ定メテ、  
 此種族ヨリ、他ノ種族ニ移ルヲ得ザルノ法制ハ、蓋  
 埃及ノ古代ノ甚タ固滞ノ法ニシテ、是ニ曰テ、國民智  
 識ノ聞闡ヲ妨礙スルヲ少ナカラズ、又珍異ヲ嫌ヒ、之  
 ヲ惡シトシ、之ヲ危シトシ、唯自ラ得ル処ノミヲ以テ  
 自ラ足レリトシ、他ヲ輕侮シ、自ラ尊大スルノ僻習アリ、  
 故ニ其國ハ、許多ノ利益ヲ具フルト雖、其民風ハ  
 常ニ愚蒙ニ止ニリテ、自ラ進ムヲ能ハズ、  
 ○埃及人ノ奉ジテ神トスル処ノ者ハ、甚ダ異常ノ物  
 ナリ、凡ソ禽獸ハ、大抵之ヲ崇奉セザルハナク、殊ニ人

ヲ利シ、人ヲ害スル者ハ、其崇奉最モ至レリ、人ヲ利ス  
 ル者ハ、其恩ヲ謝スルガ為メニ、之ヲ崇奉シ、人ヲ害ス  
 ル者ハ、其禍ヲ恐レテ、之ヲ避ルカ為メニ、亦之ヲ崇奉  
 ス、伊喇トイヘル鳥ハ、鶴ノ類ナリ、此鳥、泥祿河ノ泥中  
 ニ在テ、常ニ蛇ヲ取り食フ、故ニ其恩ヲ謝シテ之ヲ崇  
 奉ス、又此國ニ鰐魚アリ、蜥蜴ノ種類ニテ、長サ或ハ二  
 十尺ニ及ブ、若シ獲アルヲ見ル所ハ、短キ足ヲ以テ電  
 光ノ如ク飛走シテ啞啞ス、其尾長ク、能ク之ヲ以テ人  
 ヲ打殮シ、或ハ小ナル舟ヲ顛覆ス、國人其害ヲ畏レテ  
 亦之ヲ崇奉ス、又以克紐蒙トイヘル獸アリ、一名法老

兪トイフ、此物ハ鰐魚ノ大敵ニシテ、常ニ鰐魚ヲ沙中  
 ニ尋テ之ニ疵ツケ、又能ク其他ノ毒虫ヲ斃ス、故ニ國  
 人其恩ヲ謝シテ之ヲ崇奉ス、是等ノ諸獸ノ外、殊ニ國  
 人ノ貴重スルハ猫ナリ、猫ヲ養フニハ、是ガ為メニ、美  
 麗ナル席ト枕トヲ作り、金銀ノ盃中ニ、美食ヲ盛リテ  
 之ヲ食ハシム、若シ近隣ニ失火アル時ハ、其妻兒ヲ後  
 ニシ、先ツ猫ヲ抱キテ走ル、猫病ニテ死スル時ハ、一家  
 盡ク哭泣シ、家人之ガ為メニ、自ラ其眉毛ヲ截ル、其死  
 体ハ、香料ヲ塗擦シ、精緻ナル麻布ヲ以テ之ヲ裹シ、葬  
 儀ヲ盛ニシテ、之ヲ葬埋ス、若シ猫誤ツテ人ニ殺サ

ル、氏ハ、家人之ガ為メニ、必ラズ仇ヲ報ゼントヲ思  
 ス、嘗テ羅馬ノ兵卒、埃及ニ在テ猫ヲ打殺ス、忽チ國人  
 羣ヲ成シテ、其兵卒ノ居ル家ヲ圍ミ、之ヲ殺サントス、  
 祭司、兵卒ノ為メニ國人ヲ諭解シ、且ツ羅馬國ノ恐ル  
 ベキトヲ説クトイハレ、國人之ヲ肯ンゼズ、遂ニ其兵  
 卒ヲ殺シテ後ニ止ム、故ニ此所ニ於テ、殺シテ食フ処  
 ノ獸ヲ、彼所ニテハ、神ト為シテ、之ヲ崇奉スル者アリ、  
 又惣テ耕耨ニ用フル獸畜ハ、盡ク之ヲ崇奉シ、其内ニ  
 於テ、牡牛ハ、耕田ヲ司ル神ト定メテ、其崇敬、殊ニ他物  
 ニ勝レリ、牡牛ノ内ニ於テ、其色純黒ニシテ、頭ニ方形

ナル白斑アル者ハ是ヲ真神ト為ス。是ヲ養フ処ノ舎  
 ハ孟斐斯ニ在リ。祭司タル者常ニ此牡牛ニ奉仕シ食  
 物ノ淨潔ナルヲ撰ミ。牛ノ膝前ニ備ス。此牛ノ生日又  
 ハ初メテ此牛ヲ見出セシ日ハ。是ヲ埃及ノ良日ト名  
 シク其為ノニ七日ノ祭儀ヲ設ク。盛ニニ遊戯ヲ行ス。  
 神牛ノ將ニ出ントスル。吏卒ノ帶甲セル者前驅シテ  
 諸民ノ雜沓ヲ禁シ。神牛ニハ大ナル裝飾ヲ被ラシメ  
 テ。其後ニ隨行セシメ。祭司美服ヲ著テ。此神牛ヲ導ク。  
 神牛ノ左右ニ少壯ノ者ニ行ニ排列シ。皆高聲ニ神德  
 ヲ誦スルノ歌ヲ唱フ。若シ此神牛死スル時ハ。全國ノ

民盡ク悲哀シ。世運モ將ニ傾危ニ至ラントスルト思  
 へリ。此國人ノ悲哀ハ。再ヒ神牛ノ前ノ如キヲ得ルニ  
 至ルマデ之ヲ解クヲ能ハズ。已ニ新ニ神牛ヲ得ル時  
 ハ。以為ク己ニ死セシ神牛ノ魂魄。新クナル神牛ノ体  
 ニ移リ。永ク生存セル者ナリト。是ニ於テ。全國再ヒ祭  
 儀ヲ設ク。遊戯ヲ行フ。前ノ如シ。

第十八

埃及ノ政體

○埃及ノ史ハ。通常之ヲ三世期ニ分ク。○第一世期ハ  
 墨涅斯ヨリ。西索斯の利ニ至ルマテ。凡ソ七百年ノ間。

○即チ耶穌生前二千二百年ヨリ、一千五百年ニ至ル。  
○第二世期ハ、西索斯的利ヨリ參美底孤ニ至ルマデ  
凡ノ八百五十年ノ間、即チ耶穌生前一千五百年ヨリ、  
六百五十年ニ至ル。○第三世期ハ、參美底孤ヨリ、埃及  
國、波斯人ニ攻奪セラル、ニ至ル。

○摩西埃及ニ在テノ行事ハ、埃及國ノ事蹟ニ大關係  
ナキヲ以テ、埃及ノ條下ニ記セズシテ、以色列ノ條下  
ニ記スベシ。

○摩西ヨリ、希羅多達斯希臘ノ史家ノ名ニ至ルマデ、埃及ノ  
事蹟ハ、是ヲ史籍ニ記スル者ナシ、希羅多達斯ハ、波斯

人、埃及ヲ亡ホセシ後七十年、即チ耶穌生前五百年初  
メテ、埃及ニ來リ、此地ノ祭司ノ言ヲ採テ、埃及ノ史ヲ  
編成セリ、其著書ノ第二冊九十九節ヨリ、一百五十節  
ニ至ルマデハ、即チ埃及ノ史ナリ、其書ニ據レバ、墨涅  
斯ヨリ、西索斯的利ニ至ルマデ、此國ニ三百三十五王ア  
リ、其内十八王ハ、以別阿比ノ人、一王ハ婦人ニシテ、其  
名ヲ尼多克利トイフ、希羅多達斯ノ記スル処ハ、前後  
混雜ノ病アリ、且ツ事ノ始末斷續シテ貫通セズ、其後  
四百年直阿獨祿ノ記スル処ノ史、亦必シモ精確盡ク  
信バベキ者ニ非ズ、然レモ後世ノ史家、埃及ノ事ヲ記



スル者大抵此二家ノ書ニ根據セザル者少シ

埃及ノ第一世期

○此世期中ニ於テ功業ノ記スベキ諸王ハ左ノ如シ  
不西里斯第二上埃及ニ於テ得巴斯都邑ヲ開創シ富  
西滿日亞高大ナル墳冢ヲ作り或ハ是ヲ以テ西索斯  
的利ニ歸スル者アリ烏固流大ニ孟斐斯城ヲ修飾シ  
茂利斯新一湖ヲ開キ己ガ名ヲ以テ之ニ名ケ方今  
ハ加命湖トイフ泥祿河ノ水ヲ湛ヘテ旱魃ノ備ト為  
シ脱多摩支以別阿比ノ王牧畜ノ族ヲ驅逐シテ全國  
一王ノ号令ニ歸スル等ナリ

○此諸王ノ時約瑟埃及ニ来リ法老ノ侍衛長波提乏  
ノ所ニ賣與セララル其死後幾モナクシテ亞刺伯ノ牧  
畜ノ族大舉シテ埃及ヲ侵掠ス酒哥落名亡ケテ雅典  
ニ赴ク摩西上帝ノ命ヲ奉シ以色列人ヲ率ヘテ埃及  
ヲ去ル等ノ事アリ

埃及ノ第二世期

○此世期ハ埃及國隆盛ノ時ナリ全國盡ク一王ノ政  
令ヲ奉シ後世ニ存スル巨大ノ建築ハ大抵此時ニ成  
レリ  
○拉墨塞士大王希羅多達斯ノ史ニハ西索斯的利ト

稱ス、脫多摩支ノ後ヲ嗣ギ、都ヲ得巴斯ニ遷シ、亞刺伯、以剔阿比ヲ攻メテ、其土地ヲ攻略シ、又多ク偉大ノ工、作ヲ成セリ。○塞阿布及ヒ其弟塞普連、猶其工作ヲ完、備修飾シ、殊ニ塞阿布ハ全國第一ノ大石塔第十六節ヲ參看ス、  
シマヲ建造セリ。

○亞修西斯聖經ニ謂フ所ノ西撒トイヘルハ蓋シ此人ナルベシ、ハ以色列王羅破暗ヲ攻メテ耶路撒冷以列ノ首都ヲ陷ル、後ニ聖殿ト王宮ノ寶貨及ヒ瑣羅門列以色ニ出ツ、後ノ金甲ヲ取リ、以テ和議ヲ結ス。  
○其後埃及ハ麥路以剔阿比ノ王國ノ王扱巴哥ニ其

國ヲ奪ハル、扱巴哥ノ子底拉哥父ニ繼テ、埃及ノ王位ヲ踐ム、然ルニ其後麥路ノ祭司ノ傳フル處ノ神語ニ曰テ、埃及ノ王位ヲ去テ、本國ニ還ル。

○孟斐斯ノ巴答ノ祭司肩敦、此紛更ニ乘ジ、埃及ノ王位ヲ冒ス、軍士族ノ民、怒リテ其命ヲ奉ゼズ、肩敦己ム、  
一ヲ得ズ、其位ヲ去ル、此間國ノ紀綱紊弛シ、國王ノ如キ者十二人アリテ、各疆土ヲ割シテ、其政令ヲ行ス、參美底孤ハ此十二人ノ一人ナリ。

第十九

埃及ノ第三世期

參美底孤

耶穌生前六百六十六年

○參美底孤此十二王ヲ糾合シ全國ヲ數部ニ分テ之ヲ治ム國中ヲシテ永ク修睦セシムルガ為メニ諸部ヲシテ互ニ婚姻ヲ通ゼシム又己ガ名ヲ不朽ニ傳ヘシテ欲シ拉庇令トイヘル無双ノ廣第ヲ作ル第十節第六節ヲ見ル

○然ルニ此十二王緝合ノ政治又暫時ニシテ敗ル此時國ノ祭司占兆ヲ示シテ曰ク十二王共ニ神前ニ於テ金爵ヲ酌シ占候ニ應スル者一人全國ヲ惣括スル一ヲ得ニシト是ニ於テ祭日ヲ撰シ十二王皆禮拜堂

ニ集マリ神前ニ列入祭司金爵ヲ取リ之ヲ十二王ニ配分ス然ルニ祭司誤テ唯十一爵ヲ具ヘシカバ最後ニ在ル処ノ參美底孤ハ取ルベキノ爵ナシ既ニシテ祭司酒瓶ヲ執リ第一列ノ王ヨリ漸々ニ其爵ニ酒ヲ注ギ第十二列ニ及ビ參美底孤ガ前ニ至リシニ參美底孤大ニ困迫シ直ニ酒瓶ノ頭ヲ取テ之ヲ抑止ス是ニ依テ參美底孤ガ為メニ發セシ占語轉ジテ他ノ王ニ及ブ他ノ諸王大ニ參美底孤ノ所為ヲ疑ヒ遂ニ其位ヲ奪テ之ヲ放逐ス然ルニ祭司ノ内ニ於テ參美底孤ノ為メニ占フ者アリ曰ク金人海ヨリ出ル時必ス

此恨ヲ報ズルヲ得ニシト、是ニ於テ參美底孤、姑ク身ヲ此祭司ニ寄托ス、然ルニ此占候モ久シク應ナキヲ以テ其所ヲ辞シテ、濱海ノ地ニ赴ク居ルヲ幾モナクシテ、異形ノ人物、船ニ乘ジテ、海岸ニ著セリ、其人、頭ヨリ足ニ至ルマデ、盡ク金類ヲ以テ衣被セリ、是レ即チ希臘ノ海賊ナリ、此時埃及ニハ、未タ甲冑ナキヲ以テ、是ヲ見ル者、驚怪セザルハナシ、參美底孤、深ク此海賊ニ結ビ、遂ニ其力ニ頼テ、盡ク他ノ諸王ヲ驅逐シ、獨リ埃及ノ全國ヲ統宰スルヲ得タリ、參美底孤、希臘人ノ功ヲ賞シ、泥祿河口ノ地ヲ與ヘテ、其居所ト為ス

トテ許ス、是ニ於テ希臘人、葡帕士多、初テ其処ニ居ラ定ム、埃及人は是ヨリシテ、初メテ他國ノ人ト交ハルヲ知リ、殊ニ希臘人ト往來最モ多シ、參美底孤、益々交際ノ道ヲ廣フセニガ為メニ、更ニ國民ノ内ニ通詞ノ一種ヲ置ク、他國ノ高賈、埃及人ト通商ヲ行ヒヨリ、其利益甚ダ多キノミナラズ、埃及國ハ、總テ奇蹟異觀多ク、且ツ其祭司、學術ニ深邃ナリト聞キ、諸國ノ識者、此國ニ遊歴シ、以テ其見聞ヲ擴メントスル者多シ、○參美底孤、及ビ其子尼哥ノ時ニ當リ、埃及ノ通商、一時ニ繁盛シ、初メテ旧來未ダナキ処ノ船舶ヲ造作セリ、

尼哥王多ク海船ヲ造リ其材ヲ永世ニ取ラント欲シ  
非尼西國ノ林樾多キヲ知リ其地ヲ奪ハント欲シ亞  
細亞ニ出セシ兵ヲ轉シテ非尼西ニ向ハシム

珀尔侃曰ク尼哥王初メテ紅海ヲ鑿シテ地中海ニ  
通ゼニテヲ謀レリ

然ルニ邪蘇生前六百零六年巴庇倫王拿勃哥獨那索  
二名尼布甲尼撒ト西尔色修ニ戰ヒ大ニ其軍ヲ敗ラ  
シ其嘗テ畧セシ亞細亞ノ地ヲ失フ其後八十年埃及  
國全ク波斯國ノ管轄ニ歸ス

珀尔侃曰ク尼哥ノ後猶參美斯亞布釐亞瑪支參美

尼多等ノ諸王アリ參美尼多ハ埃及ノ最終ノ王ニ  
シテ波斯王岡底斯ニ其國ヲ亡ホサレ波斯ニ執ハ  
ル初ノハ岡底斯善ク之ニ遇セシガ後恢復ヲ謀リ  
テ波斯人ニ殺サル  
以色列史ノ續

第二十

摩西 耶穌生前一千五百年

○以色列ノ族埃及ニ在ルヲ年久ク其子孫大ニ其地  
ニ蕃昌セリ埃及ニハ約瑟ヲ用ヒシ善王己ニ歿シ後  
王繼テ位ニ登リシガ以色列族ノ上帝ノ眷顧アルヲ

ヲ知ラス、謂ヘラク他國ノ人、我地ニ来リ、恣ニ牧畜ノ業ヲ作シ、且ツ其奉スル処ノ教法、埃及ノ教法ニ異ナルヲ以テ、積デ平ナルト能ハズ、因テ苛法ヲ以テ之ヲ屈抑セント欲ス、然ルニ屈抑スル甚ト雖、其生育愈繁キヲ以テ、埃及王遂ニ暴法ヲ行ヒ、總テ以色列ノ族、男子ヲ生ム時ハ、直チニ之ヲ泥祿河ニ沈メシム、是ニ於テ其族ノ父母タル者、悲歎ノ聲、絶ルトナシ、  
○以色列族ノ一婦人ノ賢徳アル者、美麗ナル一男子ヲ生ミ、之ヲ匿ス、三月、已ニ匿スベカラザルニ至ル、人アリ之ニ教テ、萑ヲ編デ籠ヲ作り、小兒ヲ其内ニ入

レ、之ヲ泥祿河畔ノ葦間ニ置カシム、其母謂ヘラク、冀クハ、上帝此兒ヲ憐ミ、人ヲ遣ハシテ之ヲ救ハシメシカト、偶々埃及王ノ女、此所ニ来リ、籠中ニ小兒アルヲ見テ、之ヲ拾フテ歸リ、名ヲ命ニテ摩西トイフ、水中ヨリ拯フノ義ナリ、遂ニ之ヲ宮中ニ養ス、  
○摩西既ニ長シ、其族人ノ屈抑ヲ受ルヲ見テ、心甚ク驚異ス、嘗テ其目前ニ於テ埃及人、甚シク以色列人ヲ凌辱スルヲ見ル、摩西憤恚ニ堪ハズ、直チニ擊テ埃及人ヲ殺ス、是ニ於テ禍ヲ恐レ、急ニ埃及ヲ出奔シ、蘇士ノ地腰ヲ過キ、米田ニ赴キ、葉羅<sup>エロ</sup>ノ為メニ羊ヲ牧

摩西史盤 卷二 三七

二テ歲月ヲ送レリ。亞喇伯ニ何烈。西乃トイヘル高山  
 アリ。此高山ノ傍ニ沙漠ノ谷アリ。摩西常ニ此谷中ニ  
 至リ。天ヲ仰テ歎息シ。上帝ニ懇祈シテ。其一族ヲシテ  
 埃及人ノ虐ヲ脱セシメニテ求ム。上帝摩西ノ志ヲ  
 愍シ。棘榛ノ火中ニ其形ヲ現シ。摩西ヲシテ一タビ埃  
 及ニ還リ。其族ヲ率テ。約スル処ノ土地ニ赴ク。テ得  
 ルノ能力ヲ與ヘシム。

○摩西。法老ニ見エテ。其族人ヲ率テ本國ニ還ラシ  
 テ乞フ。法老心ヲ執ル。剛愎ニシテ。摩西ノ言ヲ聽  
 カズ。摩西。上帝ノ能力ヲ假テ。法老ヲ困苦ロシムル。

十回ニ及ビシカバ。法老初メテ以色列人ヲ放シテ。其  
 國ニ歸ラシム。晝ハ雲状ノ柱ノ如キアリ。夜ハ火光ノ  
 柱ノ如キアリ。以テ以色列人ヲ導ク。已ニ紅海ニ至リシ  
 ニ。海水忽チ左右ニ分レ。足ヲ濡ス。テナクシテ。海ヲ渡  
 レリ。法老既ニ以色列ノ族ヲ遣リシガ。後心ニ之ヲ悔  
 ヒ。大軍ヲ發シテ。之ヲ逐ハシム。法老以為久。埃及ノ軍。  
 紅海ニ至リテ。能ク以色列人ニ追及スル。テ得ベシ  
 ト。已ニ紅海ニ至リ。半バ渡ル時。忽チ波浪洶湧シ。埃及  
 ノ兵。騎馬ニ至ルマデ。盡ク水中ニ溺没セリ。摩西ハ。其  
 族人ヲ引テ。亞喇伯ノ沙漠ニ赴ク。此沙漠ハ。埃及ノ國

畏ヨリ、幼發拉的ノ河口ニ至ルマデ、殆ニド二百時程  
 ノ大沙漠ナリ。此沙漠ノ中央ニ西乃山<sup>シナイ</sup>ノ上帝大雷  
 電ノ時ニ於テ、此山上ニ出現シ、摩西ヲ見テ、為メニ十  
 戒ヲ授ク。族中ノ長者、此十戒ヲ記録シ、存シテ今日ニ  
 至レリ。以色列ノ族、此地ニ居テ定メ、以テ生活ノ道ヲ  
 興ス。摩西十戒ノ碑板ヲ藏ムルカ為メニ、一櫃ヲ作ル  
 金ヲ以テ之ヲ飾ル。後世之ヲ名ケテ盟約ノ櫃ト云ヒ、  
 是カ為ニ作リシ帳屋ヲ、法櫃ノ帳トイフ。  
 ○上帝此十戒ヲ示シテ、下民ヲ教導スルト雖、以色列  
 列ノ民、再ニ真神アルヲ忘レ、異教ニ淪溺シテ自ラ

覺ラズ。其心ヲ執ル<sup>ト</sup>冥頑ニシテ、是カ為メニ、摩西<sup>モセ</sup>亞  
 倫<sup>アロン</sup>ノ二人、殆ニド其性命ヲ失ハントスルニ至レリ。上  
 帝、此ノ如キ昏迷セル民人ニ、良土ヲ與フルヲ欲セ  
 ス。約書亞<sup>ヨシュア</sup>、迦勒<sup>カレブ</sup>二人ノ外ハ、以色列ノ族、凡テ六十万人  
 盡ク沙漠ニ在リテ、一生ヲ畢リ、更ニ良土アルヲ知ル  
 一ナシ。摩西ノ如キモ、猶一時上帝ヲ疑ヒシ<sup>ト</sup>アルヲ  
 以テ、良土ニ至ル<sup>ト</sup>ヲ得ズ。年ヲ享ル<sup>ト</sup>一百二十歳ニ  
 シテ卒セリ。其死セル状ト、死セル地ハ、誰人モ之ヲ知  
 ル者ナシ。

第廿一



巴勒斯的納、定居 士師

○以色列ノ族、亜刺伯ノ沙漠ニ在ル。四十一年、其内ニ  
 善良ナル民許多アリ、約書亞上帝ノ教ニ從ヒ、此民ヲ  
 率升テ、聖地ニ赴ク。己ニ約但河ニ至リシニ、河水左右  
 ニ分レ、約書亞ノ徒、乾足ヲ以テ河ヲ濟ル。一ヲ得タリ、  
 耶利哥城ハ、敵國疆界ノ堅要ナリ、約書亞圍ニテ之ヲ  
 攻メシニ、角聲ノ響ニ應ジテ、城垣皆崩倒セリ。是ヨリ  
 此地ノ民ハ、異教ヲ奉ヒ、其心術正シカラザル者ハ、約  
 書亞悉ク攻メテ之ヲ滅ボシ、其後全國ヲ十二ニ分テ、  
 之ヲ其十二族ニ與フ。

珀尔偃曰ク、流便、伽得ノ族、及ヒ馬拿西ノ族、一ニ約  
 但河ノ東方ノ地ヲ得、其他ノ族、約但河ト地中海ノ  
 間ノ地ヲ得タリ、

上祭司ノ職ハ、利未ノ後裔ニテ、之ニ任スル。ト定メ、  
 亜倫利未ノ後ノ族ノ世及ノ職為ル。故ニ利未ノ族人ハ、他  
 ノ十一族ノ内ニ分配シ、躬ヲ耕作ノ業ヲ勤メズ、歳收  
 ノ十分一ヲ得テ、以テ生産ヲ立ツ、

○以色列人、久シク亜刺伯ノ沙漠ニ在リテ、辛困ヲ嘗  
 メシガ、今遷リシ処ノ地ハ、土性肥沃ニシテ、禾穀茂盛  
 シ、葡萄、無花果、石榴ノ類、皆能ク成熟ス。約但河其境内

ヲ貫キ、北ヨリ南ニ向テ流レ、初ノ熱厄撒列海ヲ過キ、其終リ死海ニ歸ス。以色列ノ族、皆喜ニテ、此地ニ居ラ定メ、上帝示導ノ恩ヲ感ニ、是ヲ戴クノ益々深シ。

○然ルニ以色列人ノ、上帝ヲ感戴スルノ久シカラズ、  
 〇テ懈怠ニ其行フ処正道ヲ離レテ、罪業ニ陷ルノヲ免カレズ、是ニ於テ、上帝米田人、非利士人、亞捫人ノ如キ、以色列族ノ敵讐ニ命ジテ、以色列人ノ地ヲ奪ハシム、以色列人、大ニ窮困慙悔ニ、上帝ニ号呼シテ、其救助ヲ求ム。上帝之ヲ憐ニ、以色列族ノ内ニ於テ、勇猛ナル者ヲ撰ニテ、十二族ノ長ト為シ、其力ニ依テ、盡ク敵軍ヲ

驅逐ス。聖經ニ此勇者ヲ稱シテ士師トイフ。士師ノ内ニ於テ、殊ニ衆人ニ卓越セルハ、左ノ數人ナリ。其田師士名、其徒三百人ヲ率テ、米田ノ兵十三万五千人を撃テ之ヲ敗リ、十二万人ヲ殺シ、一万五千人を走ラス。耶布大上同、其勇武ヲ以テ、大ニ隣國ヲ恐怖セシム。參孫上其勇力ト膽略トヲ以テ、今日ニ至ルマデ、世ノ諺ニ其名ヲ殘セリ。此ノ如キ諸人ノ英武ニ因テ、以色列族ノ厄運ヲ護持スルノヲ得タリ。

第二十二

掃羅

大關

瑣羅門

及

自餘

以色列ノ

諸王

○以色列ノ最後ノ士師ヲ撒母耳トイフ。智勇ノ材ヲ以テ。其國ヲ治メ。其政績甚ク觀ルベシ。撒母耳年既ニ老シ。政務ヲ其子ニ讓ル。其子不肖ニシテ。父ノ業ヲ繼グ。能ハズ。國民撒母耳ノ所ニ詣リ。其子ノ治國ノ任ニ堪ヘサルヲ訴ヘ。政体ヲ變革シ。上帝ノ外更ニ一王ヲ立ル。他ノ諸國ノ如クナルベキヲ請フ。撒母耳其不可ヲ告諭スレド可カズ。已ム。得ズ。民ノ請ニ從ハント欲シ。便雅憫族ノ掃羅トイフ者。其家寒微ナリト雖也。其体格岐嶷。丰采甚ク都ナルヲ以テ。是ニ塗

膏シテ。立テ國王ト為ス。

○一千零六十八年。掃羅以色列王ノ位ニ即キ。善政ヲ行テ。民ヲ懐ケシカバ。民皆服從尊崇ス。其後屢敵國ト戦ヒ。盡ク之ニ捷シヨリ。其性變シテ。傲慢貪慾ト為リ。加フルニ上帝ノ命ヲ怠棄セシヲ以テ。遂ニ上帝ニ厭棄セラレ。撒母耳。掃羅ノ行ノ不正ナルヲ怒リ。走りテ伯利恒ニ赴キ。大闢トイヘル少年ノ賢德アルヲ見テ。竊カニ之ニ塗膏シテ。以色列ノ嗣王ト定ム。

○掃羅。上帝ニ厭棄セラレ。トヲ知リ。深ク憂恨シテ。自ラ安ニズルヲ能ハズ。或人掃羅ニ説キ。彈琴者ヲ召

シテ其幽鬱ヲ散ゼシム。此時大關ハ、牧畜ノ野ニ在リ  
 テ其寂寞ニ堪ヘズ。上帝ノ眷佑ヲ感シ歌ヲ作りテ上  
 帝ノ功德ヲ賛稱シ、以テ之ヲ琴ニ被ラシム。或人之ヲ  
 勸メテ王宮ニ入り、琴ヲ彈ジテ、王ノ鬱悶ヲ慰メシム。  
 幾モナリシテ、非利士人トノ戦作り、大關無双ノ勇ヲ  
 顯シテ、國人ノ親重ヲ取り、王位ニ昇ルノ路ヲ開ケリ。  
 此時非利士人ノ内ニ、ゴリアトイフ者アリ、異常ノ軍  
 装ヲ為シテ、陣前ニ進ミ出テ、以色列人ヲ嘲笑ス。大關  
 之ヲ見テ、唯一杖ト擲石繩トヲ執リ、直チニ進ニデ、ゴ利  
 亞ニ敵ス。其抛ツ処ノ石、ゴ利亞ノ前額ニ中リ、一發

ニシテ、此強敵ヲ殪ス。以色列族ノ婦女之ヲ見テ、皆歡  
 喜ニ堪ヘズ。歌テ曰ク、掃羅能ク一千ノ敵ヲ退ケ、大關  
 一人ニテ、一万ノ敵ヲ敗レリト。大關再ビ王宮ニ還リ  
 シニ、掃羅大關ノ功ヲ忌ミ、其已レニ迫ラニテ、ゴ利亞  
 之ヲ惡ム。甚シ、大關之ヲ知ラス、仍ホ琴ヲ彈ジテ、掃  
 羅ノ心ヲ慰メ、其幽鬱ヲ散ゼニテ、ゴ利亞ヲ求メ、掃羅怒ニ乘  
 ジ、戈ヲ擲テ大關ヲ擊ントスルヲ屢ナリ。大關幸ニシ  
 テ免カル。然レモ掃羅ノ憤怒滋々甚シク、必ラズ之ヲ  
 殺シテ甘心セントス。掃羅ノ子約拿單ハ、大關ノ朋友  
 ナリ、密ニ父ノ謀ヲ以テ大關ニ告グ。大關大ニ惧レ、竊

王宮ヲ出テ晝ハ林中ニ伏シ夜ハ岩洞ニ眠リ遠ク  
沙漠ノ地ニ遁ル大關此地ニ在ルノ間掃羅ヲ殺シテ  
自ラ脱スルノ好機會アリシカドモ此ノ如キ殘虐ノ  
所行ヲ為スヲ欲セス其後掃羅非利士人ト兵ヲ交  
シ軍敗レテ戦死ス是ニ於テ大關代リテ以色列ノ王  
位ニ登ル

○大關其政府ヲ耶路撒冷ニ移シ尔後此地ヲ以テ國  
ノ首都ト定ム耶路撒冷ノ傍ニ西温城アリ大關美麗  
ナル帳屋ヲ設ケ盛大ノ儀裝ヲ以テ上帝ノ法置ヲ其  
内ニ移シ大關自ラ歌詩ヲ作りテ上帝ノ功德ヲ頌シ

歌謡ヲ善クスル者ニ命ジテ之ヲ歌ハシム大關ノ歌  
詩ハ今猶存在シ之ヲアサルノト云フ又其後數次  
ノ戦争ニ目テ國ノ疆域ヲ四方ニ拓キ大ニ國民ノ愛  
敬ヲ受ク

○大關深ク上帝ノ眷佑ヲ感じ大ニ聖殿ヲ作ル以テ  
其恩ヲ謝セント欲シ己ニ其功ヲ肇メシガ中道ニシ  
テ卒去シ其成功ヲ見ル不能ハズ

○瑣羅門王父ノ志ヲ繼テ上帝ノ為メニ聖殿ヲ造ル  
是ガ為メニ建築ノ術ニ巧ミナル者ヲ四方ヨリ召ス  
殿ノ四周牆ハ盡ク柏香木ニ彫鏤ヲ施シテ之ヲ作ル

其彫琢セル花葉ハ、盡ク金ヲ以テ之ヲ飾ル。殿ノ床板  
 至テモ、亦金ヲ以テ之ニ嵌ス。其他殿ノ諸部、精金ト  
 象牙トヲ用ヒテ、之ヲ飾ラザル者ナシ。聖殿已ニ成ル  
 ノ後、又壯麗ナル王邸ヲ作り、其都城ノ周圍ニハ、堅牢  
 ナル壘壁ヲ造リテ、之ヲ遶ラス。其他國中ニ都邑堡塞  
 ヲ作ル、其タ多シ。

○瑣羅門王ハ、此ノ如キ盛大ノ業ヲ作シ、又天授ノ智  
 識、衆ニ抽ニテシテ、以テ國中ノ人、其所作ノ非凡ナル  
 驚カザルハナシ。他國ノ君民、亦瑣羅門ノ智者ナル  
 事ヲ知り、或ハ其功德ヲ稱賛シ、或ハ物ヲ遺リテ、其信

服ノ意ヲ表ス。以色列國ノ盛旺ヲ極メシハ、此王ノ時  
 ヲ以テ第一トス。

○瑣羅門王ハ、是ヨリ其志氣驕溢シ、深ク上帝ノ畏敬  
 セズ。奢侈淫逸ヲ以テ事ト爲ス。瑣羅門内寵多シ、其女  
 大抵他國ノ産ナリ、王年老ルニ及ビ、諸女屢異教ヲ以  
 テ王ヲ蠱惑ス。王之ニ惑ヒ、其嘗テ上帝ノ聖殿ヲ造リ  
 シ手ヲ以テ、再ニ異教ノ為ノニ、寺觀ヲ造營ス。是ニ於  
 テ、上帝、瑣羅門ヲ厭棄シ、其子孫ヲシテ、再ニ以色列ノ  
 王位ニ登ル、事ヲ得ザラシム。唯嘗テ大關ニ約セシ  
 アルヲ以テ、其一派ヲ留メテ、全ク之ヲ斷滅セシメズ。

○瑣羅門ノ晩年ニ至リ、國ノ華盛漸々ニ凋喪シ、遂ニ  
國內ニ争訌作リ、全國擾亂ス。王病ニテ、將ニ死セシト  
スルニ及ヒ、其平生ノ非ヲ悔テ曰ク、吾畢生為ス処、無  
益ノ事ニ非ルハナシト。

○瑣羅門王卒シ、其子羅破暗、以色列ノ王位ヲ繼グ。王、  
政ヲ為スニ、惟少年輩ノ言ヲ用ヒテ、耆舊ノ言ヲ用ヒ  
ズ。王、民ヲ馭スルニ苛酷ナリ。民、王ニ訴ヘテ其苦ヲ緩  
クセシトシテ、求ム。王之ニ答テ曰ク、我父尔等ヲシテ、重  
軛ヲ負ハシム。我ハ益々之ヲ重クセシ。是ニ於テ、以色  
列ノ十族、王ニ叛キ、耶羅破暗ヲ立テ、王ト為シ、國ヲ以

色列ト号ス。獨リ猶大ト便雅憫ノ二族ノミ、猶ホ王ニ  
從ヒ、國ヲ猶大ト号ス。

○是ニ於テ、亞伯拉罕ノ後裔、分裂シテ二國ト為リ、竟  
ニ一ニ歸スルヲ能ハズ。是ヲ耶穌生前九百七十四年  
ノ事ト為ス。耶路撒冷ハ、旧ニ仍テ、猶大國ノ首都ト為  
リ。以色列國ハ、以法蓮山ノ示劍ヲ以テ首都ト定ム。後  
ニ之ヲ撒馬里ト名ク。此兩國互ニ敵讐ノ心ヲ抱キ、戰  
争連年、兩國共ニ之ガ為メニ國力甚ダ疲弊ス。

○以色列國ハ、九百七十四年ニ分立シ、七百二十年ニ  
亡ブ。年ヲ得ルニ二百五十四年、耶羅破暗ヨリ後、十八

王アレバ、皆庸闇ノ君ニシテ、其民ト共ニ異端ニ迷溺  
シ、上帝ヲ尊信スルヲ知ラズ、是ニ依テ、國ノ幸福自  
然ニ耗損ス。上帝下民ノ愚蒙ヲ憐ミ、時々國中ニ賢徳  
アル者ヲ降シ、之ヲ前知人ト名ケ、以テ其民ヲ教導セ  
シム、然レバ民ノ迷溺己ニ深ク善ニ遷リ過テ改ムル  
不能ハズ、是ヨリ國內屢々兵亂起リ、國力疲憊シ、遂  
ニ耶穌生前七十二年、亞述王撒馬拿薩ノ為メニ、其  
國ヲ攻破セラレ、國民盡ク亞述ニ遷サル。  
○猶大國ハ九百七十四年ニ分立シ、六百年ニ至テ六  
百三十二年、波斯王西祿斯、巴庇倫ヲ攻メテ之ヲ亡  
ス、故ニ以色列國ニ後ル、一殆ニド百年ナリ、此國ノ

諸王ハ、賢愚雜出フト雖、殊ニ愚者ヲ多シトス、此國  
モ亦以色列國ノ如ク、國中ニ前知人出テ、神道ヲ修メ、  
禮法ヲ正シ、以テ此民ヲ正道ニ導カントセシカト  
モ、隣國ノ異教、此國ニ闖入リ、民竟ニ正路ニ歸スルヲ  
能ハズ、耶穌生前六百年、巴庇倫王拿勃哥獨那索、尼布  
甲尼撒攻メテ此國ヲ滅シ、悉ク其民ヲ巴庇倫ニ移  
ス。  
○上帝猶大ノ民ヲ眷顧スルヲ猶衰ヘバ、前知人ノ口  
ヲ借テ、其奴隸ノ役ヲ免カレシメントス、耶穌生前五  
百三十六年、波斯王西祿斯、巴庇倫ヲ攻メテ之ヲ亡ボ

卷五  
四百七  
四七



前知人某原本此人名優德ノ言ヲ用ヒ、盡ク猶大  
人ヲ赦シテ、其本土ニ還ラシム。非常ノ寬典ヲ用ヒ、此  
民ヲ以テ、耶路撒冷ノ聖殿ニ附屬セシム。猶大ノ民巴  
庇倫人ノ為メニ雇使セララル、一凡ソ七十年。此時本  
土ニ還ルヲ得ル者纔カ五万人ニ過ギズ。前知人耶士  
鐸トラス、尼歇米亞ニクマイアノ二人、神道ヲ再興シ、摩西ノ法戒ヲ循  
守セシム。然ルニ此神道ノ事ヨリシテ、國民ノ間ニ異  
論起リ、兩黨相分レテ、互ニ相排撃ス。其後一百六十年  
前、麻加使ノ政柄ヲ執リシ時、國力蘇息シテ殆ニド  
旧時ノ盛ニ復セニトス。然ルニ其後又國中ニ兩黨分

立シ、國力大ニ疲レ、夫ヨリ漸々ニ衰弊シ、七十四年ニ  
至リ、遂ニ羅馬人ニ征服セララル。然レモ是ヨリ猶大一百  
年ノ間、旧ニ依テ國王ヲ存シ、貢税ヲ羅馬ニ納レテ、屬  
國タラシム。耶穌生後七十年、菲士巴西那帝ノ子弟ナトス度  
耶路撒冷ヲ攻テ之ヲ陷レ、盡ク之ヲ殘破ス。猶大人ノ  
虜ニセラル、者七万九千人。殺戮セララル、者勝テ數  
フベカラズ。其他ハ盡ク四方ニ奔竄シ、是ニ至テ、猶大  
ノ族、全ク滅亡セリ。

上文ノ詳説

○猶大ノ民五万人、索羅吧白ノ前導ヲ以テ、耶路撒冷

還ル按バルニ。上文ニ記セル波斯王西祿斯其都城  
 上帝ノ聖殿ヲ再建セシト欲ス。然レハ撒馬里達人  
 和熟セガルヲ以テ其事遂ニ成ラス。按ナルニ撒馬  
 以色列ノ民亡レニ後其殘餘ノ民及ビ叙里亞ノ王國  
 民地ノ民相集ニリテ其迹ニ國ヲ開キシ者ナリ此時  
 ヨリ猶大ノ民ハ復タ國王ヲ立テス貢稅ヲ波斯ニ獻  
 ジテ其屬國ト為ル。然レハ旧時ノ風俗ト法則ハ猶之  
 ヲ守リテ失フコトナシ。

○亞勒山德大王アハキサ、亞細亞ニ入テ波斯國ヲ亡ボセシ時、  
 猶大ノ大祭司雅鐸トス諸ノ祭司ト國人トヲ率キ出テ亞  
 勒山德ヲ迎テ亞勒山德猶大人ヲ綏撫シ以テ其與國

ト為ス。

珀尔偃曰ク、亞勒山德將ニ耶路撒冷ニ入ラントス  
 ルノ前夜、上帝大祭司雅鐸ニ謂テ曰ク、敵王若シ来  
 ラバ、宜ク安静以テ之ヲ待ツベシト。明朝亞勒山德  
 已ニ至ルト告ルニ及ビ、雅鐸盛服ヲ着シ、衆祭司ヲ  
 従ヘ出テ之ヲ迎テ、亞勒山德其儀裝ノ盛麗ナルト、  
 大祭司ノ頭上ニ鏤金セル耶和華ホ別号ノ名ノ照  
 耀スルヲ見テ、一人挺出シテ、前ニ進ミ、耶和華ノ名  
 ヲ崇拜シ、兼テ大祭司ヲ尊敬ス。巴美尼疴バ、亞勒山德  
 其故ヲ問テ、亞勒山德答テ曰ク、予祭司ヲ敬スルニ

非ス。實ニ上帝ヲ敬スルナリ。予馬西多尼亞勒山德本國

ヲ發セントスル時。上帝其形ヲ顯ハシ。予ヲ勸メテ。

此役ヲ起サシメ。必ラス波斯國ヲ平定セシムル。

ヲ約ス。其時上帝ノ形裝。今見ル処ノ大祭司ノ形裝

ニ同シト。是ニ於テ。祭司ノ前導ニ從テ。上帝ノ聖殿

ニ詣リ。亞勒山德。度ニテ自ラ瞻禮ヲ行ヘリ。

○亞勒山德ノ卒スル後。埃及叙里亞ノ王塞勒西里ノ

地ヲ争フヨリシテ。戰鬥ヲ起シ。猶大ノ民大ニ其害ヲ

被ムル。

珀尔保曰ク。塞勒西里ノ地ハ。其首都ヲ大馬色革ト

イフ。保羅古賢名ガ懺悔シテ。善ニ遷リシ所ナリ。此地

ヨリ。絲毛麻ノ良布ヲ出ス。諸國之ヲ稱シテ大馬色

トイフ。

○安的固耶卑哈尼亞勒山德ノ將ノ時ニ至リ。無極天帝希臘

奉ズルノ像ヲ。耶和華ノ聖殿ノ内ニ安置シ。猶大ノ民

ヲシテ。強テ其祖先以來ノ神道ヲ棄テ。異教ニ入ラシ

メント欲ス。猶大ノ耆老耶列撒羅及ビ民ノ一母數子

其命ニ從ハズ。豚肉ヲ食ハザルヲ以テ。大ニ拷掠ヲ受

ク。

○哈士摩尼古ノ族。猶大ノ民ヲシテ。馬西多尼ノ虐政

ヲ脱セシメント欲シ其事未ダ成ラズ祭司馬達的亞  
衆民ト共ニ耶路撒冷ヲ脱走シ山中ニ匿ル其三子猶  
大約拿達西門後ノ二人ハ大祭司ナリ其父ノ死後志  
ヲ繼テ其都邑ヲ遁レ羅馬人拉塞特蒙人ト連和シ屢  
々寡兵ヲ以テ馬西多尼ノ大敵ヲ擊破ス

○是ヨリ大祭司ト將軍ノ職トハ西門ノ家ニテ之ニ  
任ズルト為ル西門ノ子約翰菲爾加諾茹里泰山ノ  
上ニ在ル撒馬里達人ノ殿堂ヲ破壊ス此人ノ為ス処  
ハ唯本國ノ法度ヲ守リ祖先ノ教法ヲ興スニ在リ其  
子亞利斯多保羅國王ノ位号ヲ稱シ王冕ヲ服ス然レ

厄數世ナラスビテ王号ヲ去ル

○亞利斯多保羅ノ弟亞勒山得陽紐兄ノ後ヲ襲ギ位  
ニ在ル二十七年其卒スルニ及ビ其后亞勒山安拉  
又颯里那ト稱ス大祭司ノ職ヲ其子希爾加諾ニ與  
自ラ攝政シテ國權ヲ掌握ス亞勒山安拉卒スルノ後  
季弟亞利士多保祿其兄希爾加諾ノ位ヲ奪ハントス  
偶羅馬ノ大將綑標覓的里達隄名ヲ擊テ亞細亞ニ入  
ル綑標猶大兄弟ノ争隙ノ故ヲ訊亂シ亞利士多保祿  
ノ罪ヲ論ビ捕ヘテ羅馬ニ送り希爾加諾ヲ定メテ大  
祭司ノ職ニ居ラシメ羅馬ノ兵ヲ以テ之ヲ守ラシム

○爰以鐸麥人安底巴的トイフ者アリ國ノ豪族ニ  
 之テ功名ヲ好ムノ心甚シク希爾加諾ノ黨ト為リテ  
 亞利士多保祿ヲ逐セリ其後羅馬ノ大将ガウルス入略愷撒  
 安底巴的ヲ以テ猶帖ノ方伯ト為シ按ズルニ猶大ノ  
 病テ加利勒撒馬里猶帖其子希祿特士年二十五ニ及  
 時猶囚ハレテ羅馬ニ在リ其子安地義那アサス霸尔多人ノ  
 力ヲ假リ若シ猶帖ノ地ヲ取ルトヲ得バ一千答連  
 多貨幣ノ金ヲ以テ之ニ酬フベキトヲ約ス霸尔多  
 人遂ニ希爾加諾ヲ攻メテ之ヲ捕ヘ其兩耳ヲ截リテ

軍停ト為ス希祿特士及ヒ其弟法色祿士ハ嘗テ安多  
 紐紐羅馬ノ大ヨリ的多拉ル西ノ地ヲ得シトアリシヲ  
 以テ其地ニ奔リテ安多紐ニ依ル原註ニ曰ク法色祿  
 岩石ニ觸羅馬ノ議政官相議シテ希祿特士ヲ以テ猶  
 大王ト為ス安地義那ハ猶帖ノ地ニ王タルト三年三  
 月羅馬ノ兵耶路撒冷ヲ陷ルニ及ビ遂ニ為ノニ生擒  
 ヒラレ安多紐ノ命ヲ以テ安底阿西地名ニ於テ斬首セ  
 ラル是ヨリ猶大ノ王位移リテ希祿特士ニ歸ス此人  
 ハ其教法ハ能ク猶大ノ古道ニ循フトイハレ本ト以  
 鐸墨族ノ人ナルヲ以テ之ヲ稱シテ異族ノ人ト云ハ

リ、教祖墨西亞耶穌基督別号基督此時ニ生ル。

○皇帝羅馬奧古士都希祿特士猶大王ノ位ヲ許シ、且ツ之ニ加フルニ幾多ノ土地ヲ以テス。然ルニ希祿特士、暴虐殘忍、人ニ君タルノ器ニ非ス。王妃馬里安尼妃ノ祖父布ル加カ訥ナ妃ノ弟大祭司亞里斯多保魯妃ノ二子亞勒散得亞里斯多破羅及ヒ麻加使シノ一族悉ク王ノ毒手ニ羅リテ、其命ヲ殞ス。

○王殘虐ノ心未ダ止セズ。此時救世大教師墨西亞伯利恒ノ地ニ生レタリト聞キ、王深ク之ヲ惡ミ、必ラス之ヲ殺サント欲シ、伯利恒及ヒ其傍近ノ地ノ小兒二

歳以下ナル者ハ悉ク之ヲ殺スベシト命ス。然ルニ希祿特士大ニ上帝ノ譴罰ヲ受ケ、其志ヲ達スルヲ能ハズ。其下体腐壞シ、蛆蟲之ニ生シ、殆ント全身ヲ食ヒ盡シテ、後死セリ。

珀尔倨曰ク、異教ノ書記馬古祿希祿特士ノ殺見ノ令ヲ下スト聞キ、皇帝奧古士都ニ謂テ曰ク、吾寧ロ猪豚ト為ルモ、希祿特士ノ子ト為ラズト。

○奧古士都猶大王ノ地ヲ以テ、希祿特士ノ諸子ニ分テ、腓立ニ拔答尼省拉瓜尼的奧拉尼的ヲ與ヘ、希律特士安底巴ニ加利勒及ヒ百勒ノ四分一ヲ與ヘ、亞塞勞ニ

猶帖撒馬里ヲ與フ。奧古士都亞塞勞ヲ以テ暴虐ニシ  
テ人ノ上ヲラシムベカラスト為シ之ヲ加尔利ノ維  
也納ニ放逐ス。是ヨリ猶帖ハ羅馬ノ郡ト為リ。方伯ヲ  
置テ之ヲ鎮ス。方伯本去彼拉多ノ時。救世大教師耶穌  
基督耶路撒冷ニ於テ十字架ノ刑ニ行ハル。底白流帝  
殺セラル。ニ及ビ。彼拉多羅馬ニ還リ。亦維也納ニ放  
逐セラレ。彼拉多憤懣ニ堪ヘズニテ自殺ス。  
○分封ノ王希律特士安底巴。其兄腓立ノ妃希羅底ヲ  
奪フ。耶穌ノ使徒約翰較底士達。其道ニ非ルヲ議ス。希  
律特士大ニ怒リ。約翰ヲ捕ハ。斬首ノ刑ニ處ス。希律特

士。又耶穌ノ所業ヲ誹笑シ。是ヲ彼拉多ノ所ニ送ル。其  
後入略愷撒希律特士ヲ里昂ニ放テ。更ニ本國ヨリ遠  
ガケント欲シ。再ヒ之ヲ西班牙ニ送ル。  
○第三ノ希律得士。本名ヲ亞基吧トイフ。暴王希律特  
士ノ孫ニシテ。亞里斯多破祿ノ子ナリ。亞里斯多破祿  
ハ。教門ノ藉ニ。其名ヲ除カレシ人ナリ。羅馬帝加俞愷  
撒。第三ノ希律得士ニ腓立ノ領セシ地ト。里撒尼ノ地  
ヲ與ヘ。封シテ分封ノ王ト為ス。皇帝革老丟斯又希律  
得士ニ與フルニ。其祖希律特士ノ有スル処ノ地ヲ以  
テス。是ニ依テ。猶帖ノ地。復タ猶大ノ所管ニ歸ス。希律

長石又監  
卷二  
吾

得士使徒約翰ノ弟雅各ヲ執一テ之ヲ殺ス猶大人之ヲ喜ブ是ニ於テ更ニ使徒彼得ヲ捕縛シ巴先祭儀ノ後之ヲ諸民ノ觀ニ供セントス然ルニ上帝天使ヲ降シ彼得ヲ助ケテ希律得士ノ手ヲ脱セシム以テ猶大人ノ望ヲ空フセシム

○希律得士其志氣日ニ驕慢シ人ヲシテ己ヲ尊ニデ神ト稱セシムルニ至ル是ニ因テ天使下リテ譴罰ヲ與ヘ蛆蟲ヲシテ身体ヲ蝕セシム終ニ之ヲ以テ其不潔ノ精魂ヲ散シ盡セリ

○希律得士ノ子小亞基吧父ノ後ヲ繼ギ初メ叙利亞

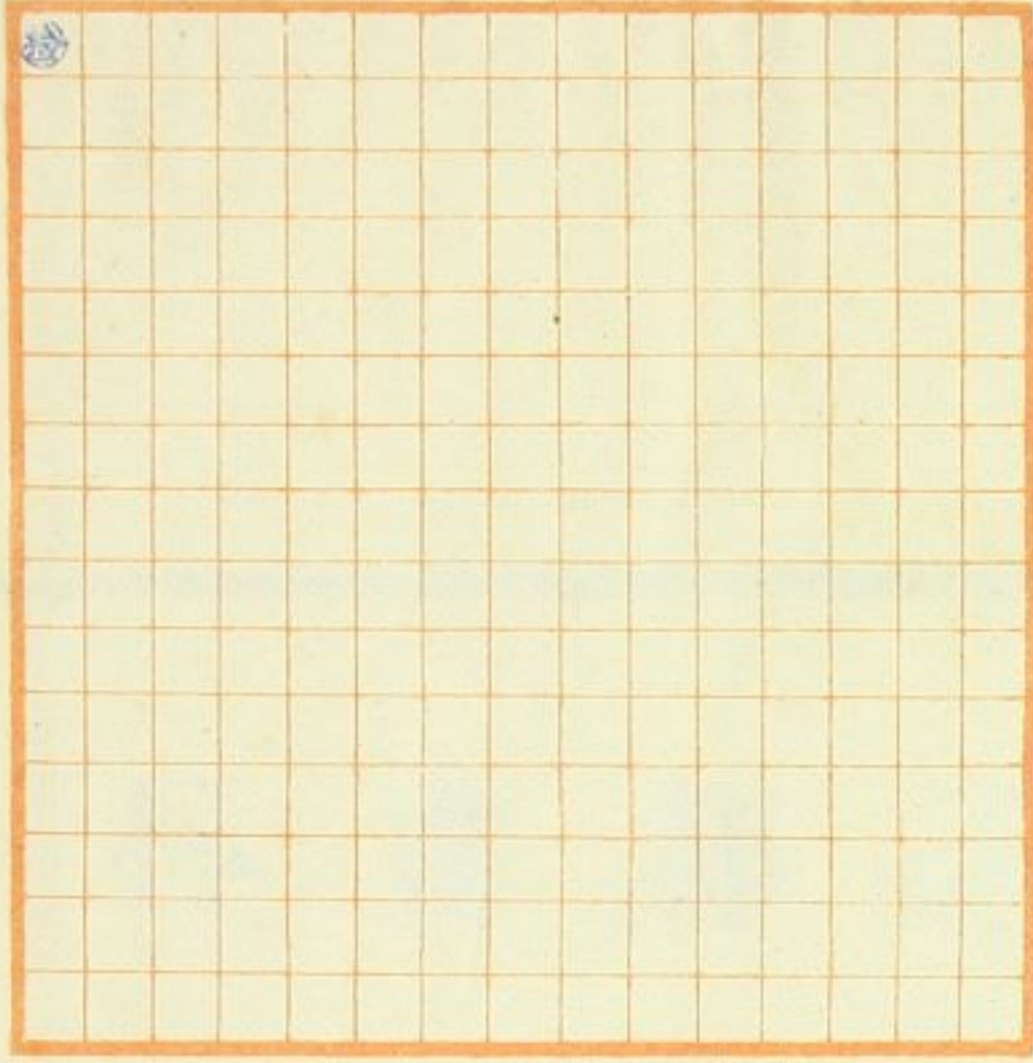
ノ内ニアル加爾西田ノ王ト為リ後羅馬帝草老丟斯愷撒ノ命ヲ以テ腓立及ヒ亞昆連ノ分封ノ後ヲ承ケシム

○是ニ依リ猶帖ハ再ヒ羅馬ノ郡ト為リ方伯ヲ置テ之ヲ治ム方伯ノ内ニ腓力士波求非士都等アリ此二人ノ方伯タリシ時耶穌ノ使徒彼得ヲ囚フ彼得道ヲ信スル甚ダ固ク亞基吧王及ヒ其妹百尼基ノ前ニ於テ侃々辯論シ幸ニシテ其禍ヲ遁ル、一ヲ得タリ

泰西史鑑上編卷之二終



4年3月



泰西史鑑上編三冊普人勿的不  
所著而西村昂所記也今茲  
明治二十二年晚秋下二得之本鄉  
書肆價金五錢

明基陸

京都寺町通松原下八

勝村治右衛門

大坂心齋橋北久太郎町

柳原喜兵衛

同安土町

石田和助

東京日本橋通壹町目

北島茂兵衛

同二町目

小林新兵衛

同芝神明前

佐久間嘉七

同所

牧野吉兵衛

兩國横山町三四目

太田金右衛門

日本橋通二町目

稻田佐兵衛

三都書林

京都寺町通松原下八	勝村治右衛門
大坂心齋橋北久太郎町	柳原喜兵衛
同安土町	石田和助
東京日本橋通壹町目	北島茂兵衛
同二町目	小林新兵衛
間芝神明前	佐久間嘉七
同所	牧野吉兵衛
兩國横山町三町目	太田金右衛門
日本橋通二町目	稻田佐兵衛

泰西史鑑上編三冊普人勿的  
 所著而西村昂所記也今茲  
 明治二十二年晚秋下二得之本鄉  
 書肆價金五錢

明基陸

